

軸組工法接合部の標準仕様

各接合部共通：プレカット製品を使用する場合はその形状および許容耐力に及ぼす影響を確認する。

(1) 横架材どうしの継手

1. 曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ

- せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
- 長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
- 逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
- 柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。
- 土台の場合は、継手から男木側100mm付近にアンカーボルトを設ける。

腰掛け蟻継ぎ 台持ち継ぎ

腰掛け鎌継ぎ 継手位置

腰掛け蟻継ぎ 短冊金物 アンカーボルト

プレカット機械による継手・仕口

2. 曲げ応力や引張力を負担する継手

：追掛け大栓継ぎ、金輪継ぎ、戻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合

- 伝達できる曲げモーメントや引張力は母材全断面強度の20%以下と考えること。

追掛け大栓継ぎ 金輪継ぎ

戻挟み継ぎ 鋼板挿入ドリフトピン

(2) 柱の継手

- 階の中間部における柱の継手は原則として禁止する。
- やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。

(3) 横架材どうしの仕口

1. せん断力が母材全断面強度の30%以下の仕口：（大入れ）蟻掛け

- 長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
- 逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
- 男木の梁せいが女木の2／3以下の場合か、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいの2／3程度のアゴをかける。

女木 男木 羽子板ボルト

あご掛けの場合 大入れ蟻掛け 仕口直下に柱がある場合

蟻掛け 蟻大入れ掛け 寄り蟻大入れ掛け

プレカット機械による継手・仕口

2. せん断力が母材全断面強度の30%を超える仕口：梁受け金物

- 既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認する。

3. 一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡りあご掛け

- 逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用する。

片持ち梁 渡りあご掛け

梁受け金物の例（クレドック金物） 渡りあご掛け

プレカット機械による継手・仕口

(4) 柱と横架材の仕口

1. 柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み栓止め

- 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。

短ほぞおよび平ほぞ穴

横架材 山形プレート 柱 横架材

短ほぞ差し + 山形プレート止め 長ほぞ差し 込み栓止め

プレカット機械による継手・仕口

2. 土台の出隅入隅部

：土台どうしは襟輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差し又は寄せほぞ差し又は寄せほぞ差し（柱勝ちの場合、落とし蟻、あるいは土台を寄せほぞ差しとする。）

- 短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。

扇ほぞ差し 襟輪小根ほぞ差し 寄せほぞ差し 落とし蟻

3. 通し柱と胴差し：小胴付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物

- 梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。

傾ぎ大入れほぞ差し 短冊金物 かね折り金物 小胴付きほぞ差し

胴差し 横差し 襟輪差し

プレカット機械による継手・仕口

(5) 筋かい端部

- 平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。

筋かいプレート（同等認定品）

(6) 火打ち、方杖

- 角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れほぞ差し＋ボルト締めとする。
- Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。

傾ぎ大入れほぞ差し ボルト（M12標準）

火打ち、方杖

土台火打ち 桁火打ち 中間火打ち

プレカット機械による継手・仕口

(7) 小屋束の上下端部

- 短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓止めとする。
- 短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。

母屋 小屋束 小屋梁 ひら金物

(8) 根太、垂木と横架材

- 落とし込み根太：横架材に大入れ または根太掛け＋斜め釘
- 半欠き根太：横架材に大入れアゴ掛け＋斜め釘
- 転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に胴釘止め
根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本＋転び止め
- 垂木：横架材に垂木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
- 風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。

根太彫り 半欠き根太 垂木 ひねり金物 転び止め 根太彫り

プレカット機械による継手・仕口

(9) 間柱と横架材

- 上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘
- 上部ほぞ差し、下部突き付け＋斜め釘

(10) 釘の最小間隔及び最小端あき距離

(d：釘径)

		加力方向	
		縦 継 方 向	縦継直交 方 向
縦 継 方 向	E1	15d	10d
	P1	12d	10d
縦 継 直 交 方 向	E2	5d	8d
	P2	5d	8d

図解：縦継方向と縦継直交方向の釘配置パターン（E1, P1, E2, P2）

(11) ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

(d：ボルト径、t：主材厚)

		加力方向	
		縦 継 方 向	縦 継 直 交 方 向
縦 継 方 向	E1	7d (荷重負担側) 4d (荷重非負担側)	7d
	P1	7d	t/d=2 3d 2 ≤ t/d < 6 3d ~ 5d t/d > 6 5d
縦 継 直 交 方 向	E2	t/d ≤ 6 1.5d t/d > 6 1.5d か、かつ P2/2	4d (荷重負担側) 1.5d (荷重非負担側)
	P2	3d	4d

図解：ボルト配置パターン（E1, P1, E2, P2）

(12) 面材耐力壁

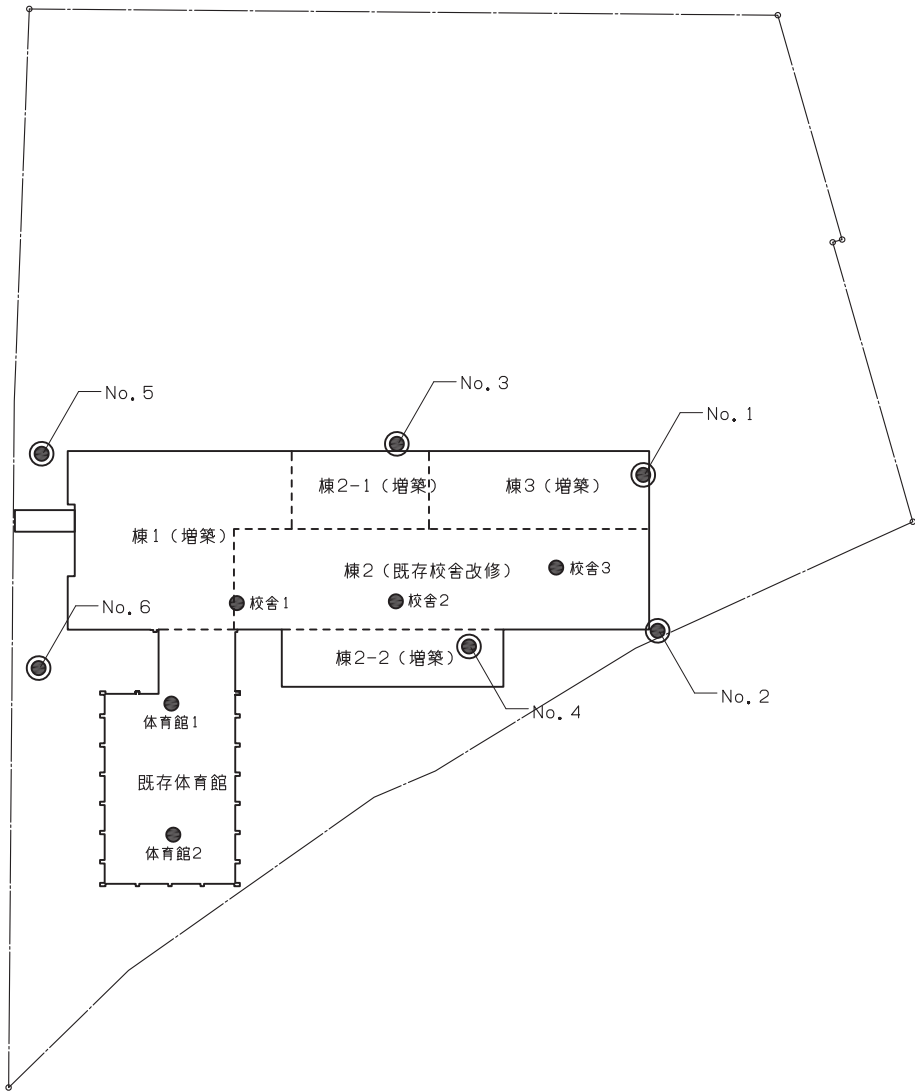
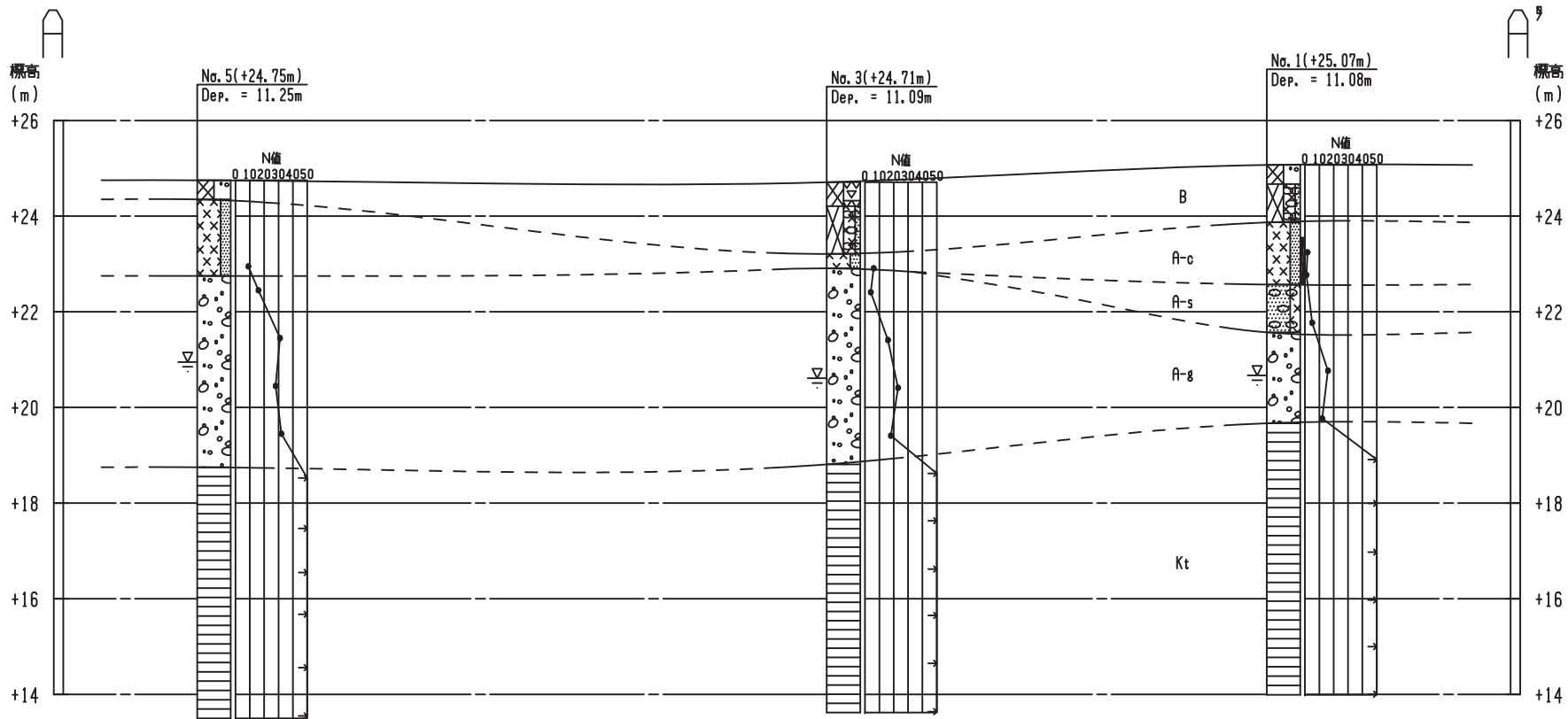
1. 大壁造の場合

2. 真壁造の場合

図解：大壁造と真壁造の断面図（単位：mm）

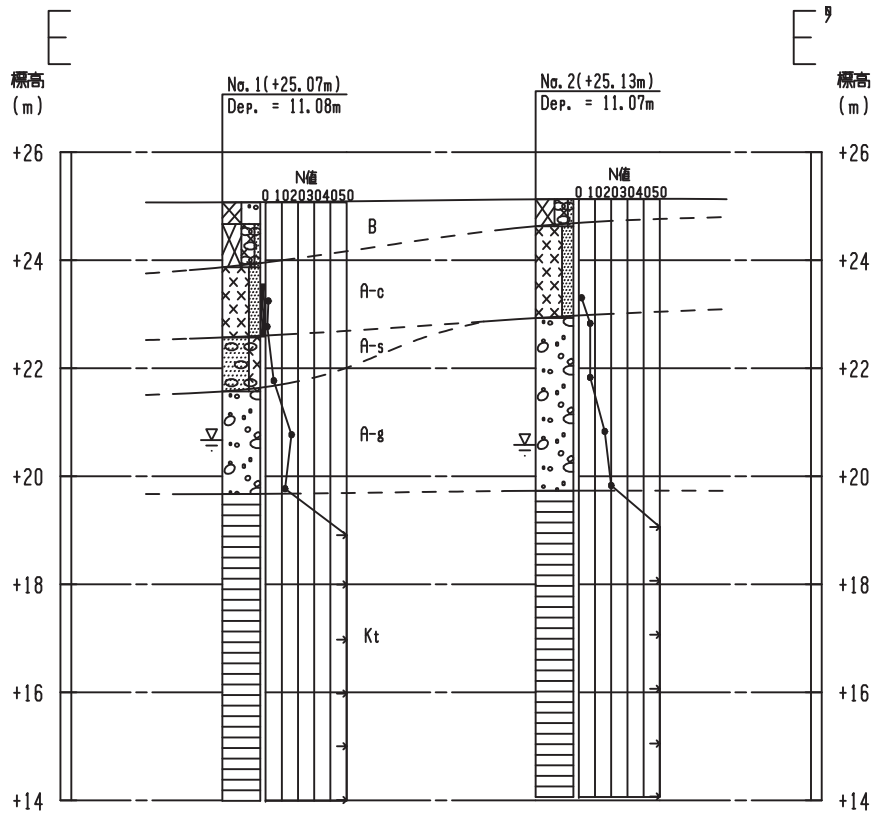
（単位：mm）

- ・受け材は柱や横架材にN75-φ300以下で平打ちする。



調査地の土層構成

地質時代		土質区分	土層記号	主な土質	N値
現世		盛土層	B	砂礫	11
第四紀	完新世	粘性土層	A-c	砂質シルト	1～2
		砂質土層	A-s	礫混じりシルト質砂	3～6
		礫質土層	A-g	砂礫	4～50以上
白亜紀		上部蝦夷層群・寿装	Kt	シルト岩	50以上



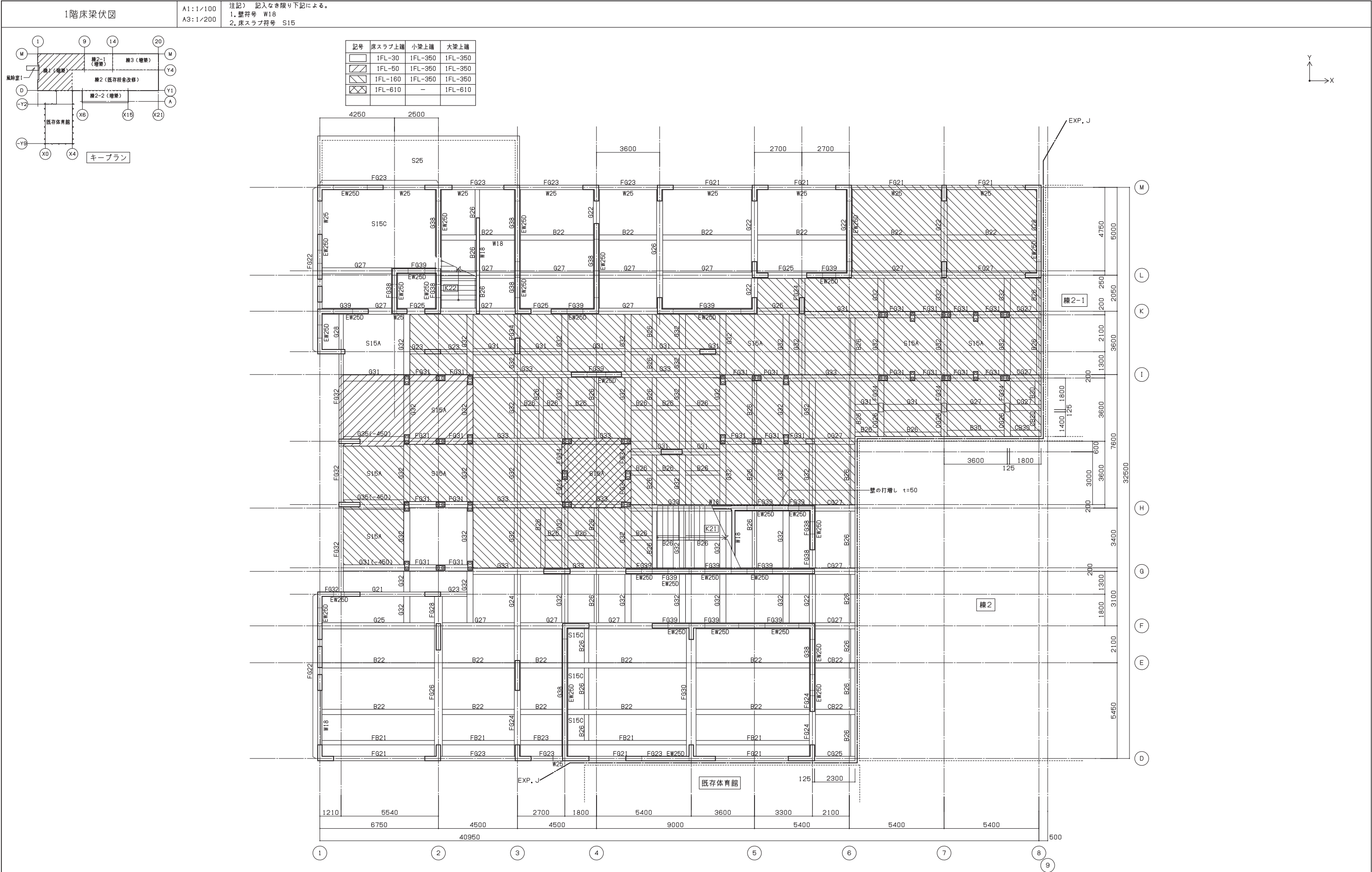
審工			
竣工			
監理			
施工			

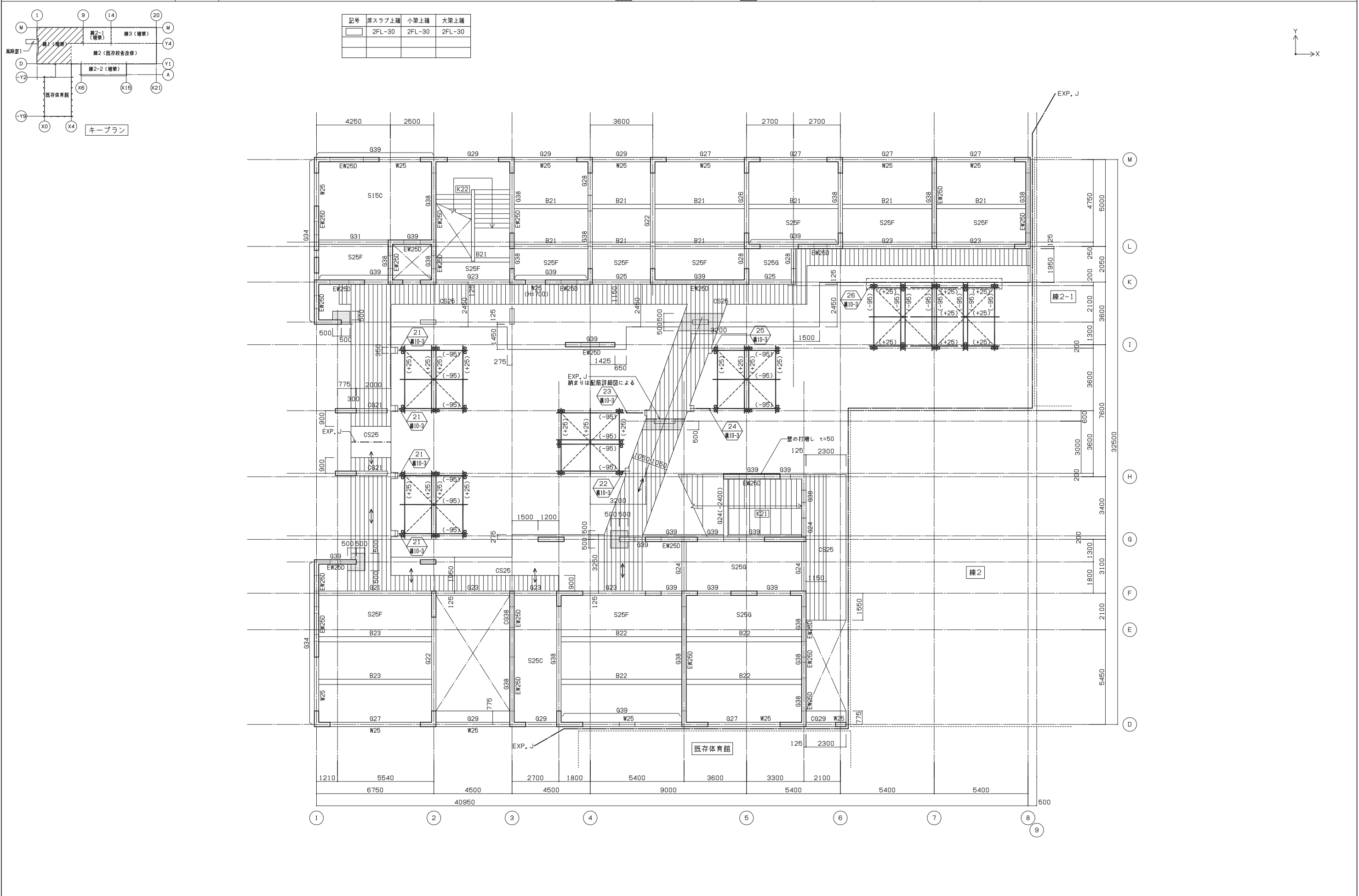
2-01_中頃別 調査位置図、断面図、DWG_1/700_24/04/22

代表となる設計者	勝矢 武之	一級建築士
その他の設計者	久次米 薫	一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認)
	宮城 正弘	一級建築士・構造設計一級建築士
	若松 宏輔	
	中村 優人	
	大和 絢子	

日建設計	(仮称)人生100年の学びの拠点 中頃別学園整備工事		構 (通し番号) 2 - 1
	2024. 8. 30	検図者: 宇田川 貴章	調査位置図、断面図

No. J - 221730 - C





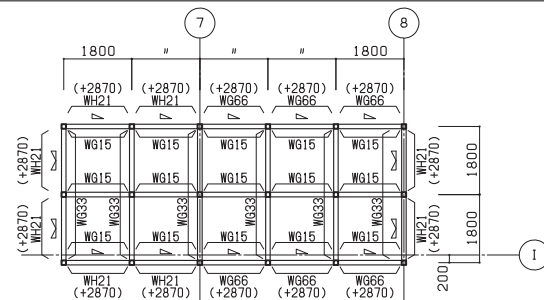
注記) 記入なき限り下記による。
1. バラベット符号 W18(h=800)
2. 木梁符号 WG12

3. ■■■ は、木梁符号WG15とする。

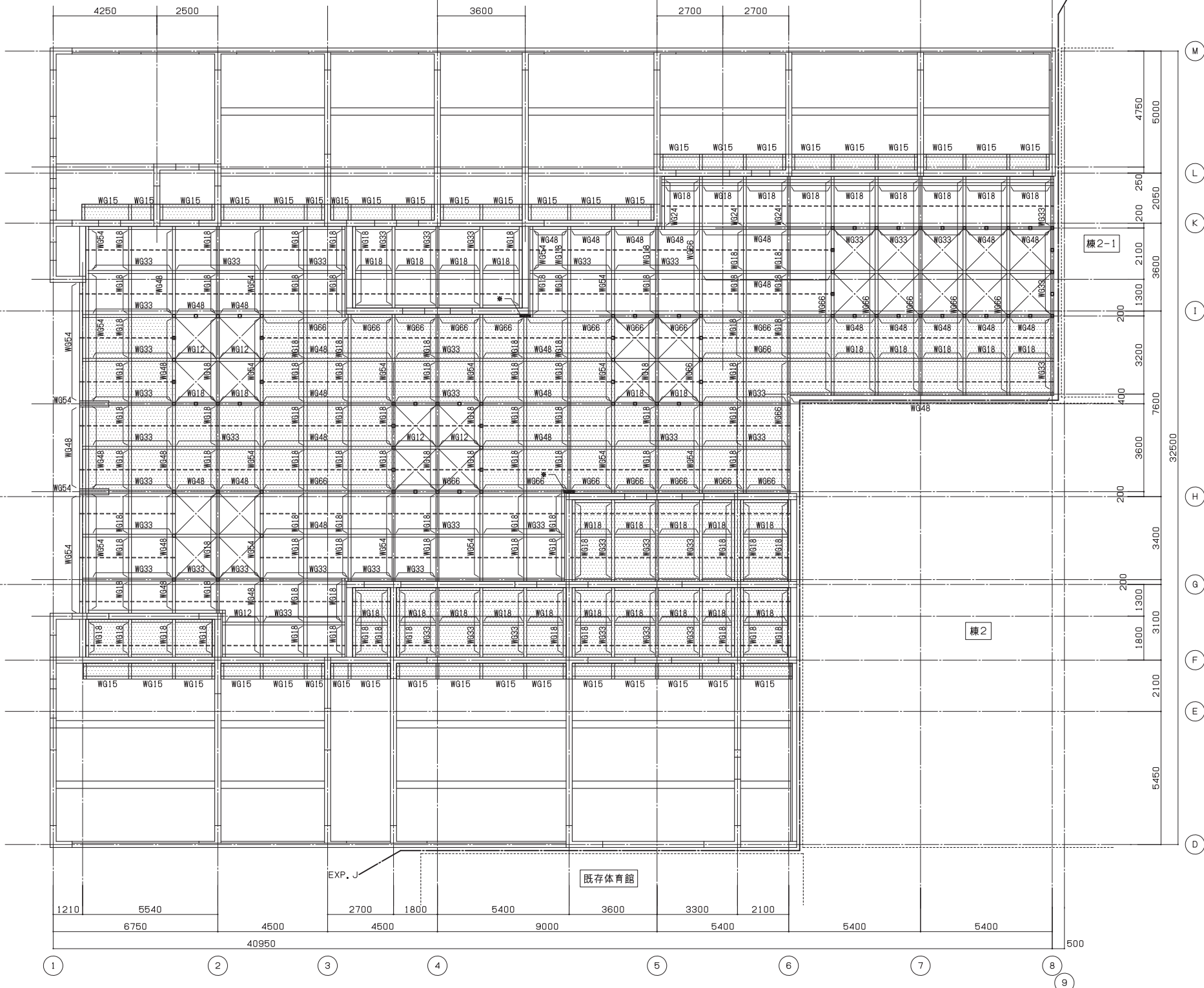
4. 木造の屋根部分は、根太WG9 90×90@900を設けて、構造用合板を構造用合板仕様の方法で設ける。

5. は、鋼棒による筋交い（壁倍率2倍以上）および構造用合板 $\pm 12\text{mm}$ による大壁（壁倍率2倍以上）とする。
 は、鋼棒による筋交い（壁倍率4倍以上）および構造用合板 $\pm 12\text{mm}$ による大壁（壁倍率4倍以上）とする。

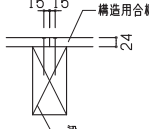
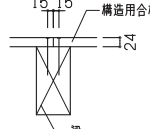
6. ※印は、2×BS-S360(BXカネシン)または、オメガ短冊スリム10ロング450×2(タナカ)を示す。

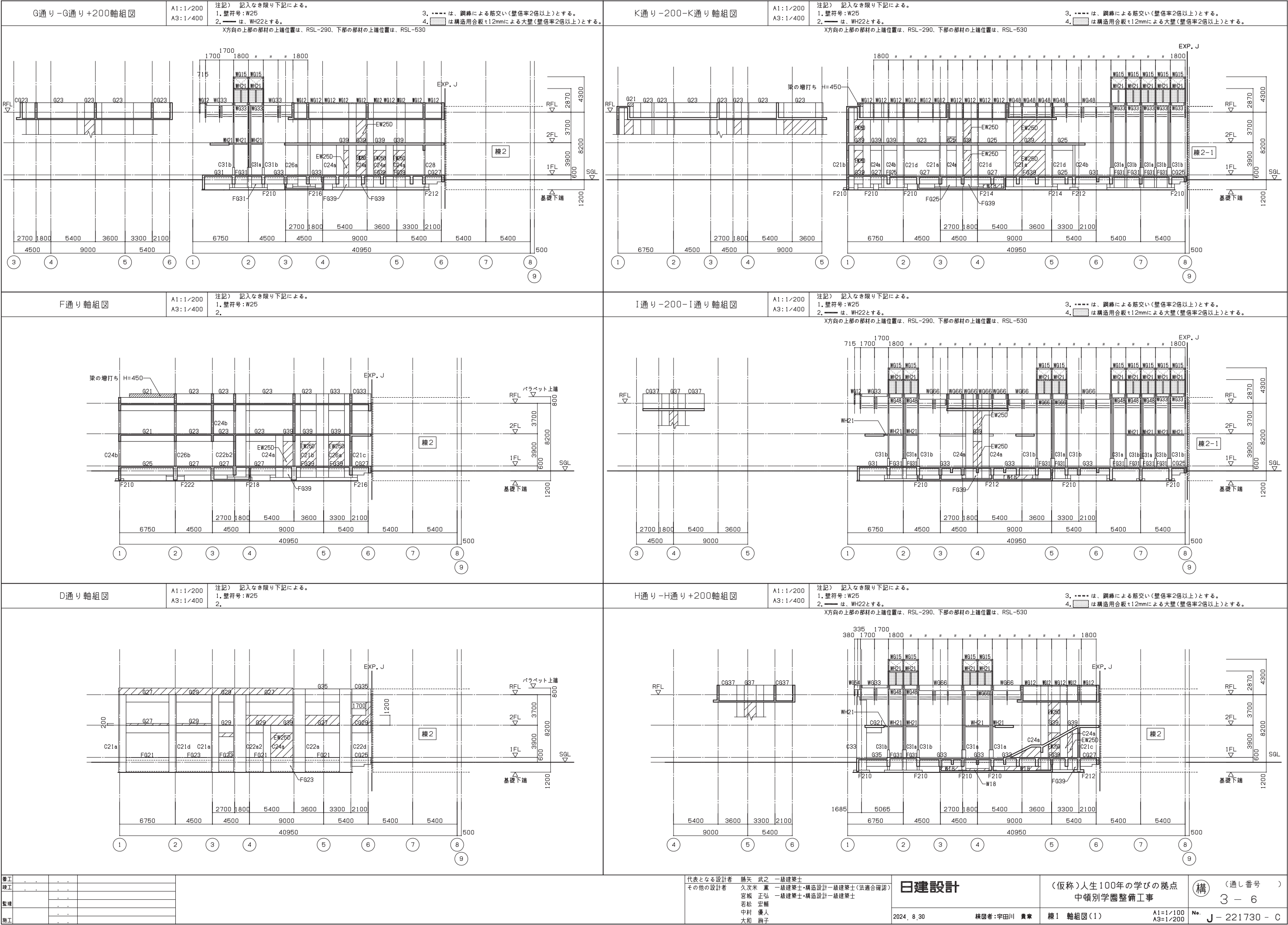


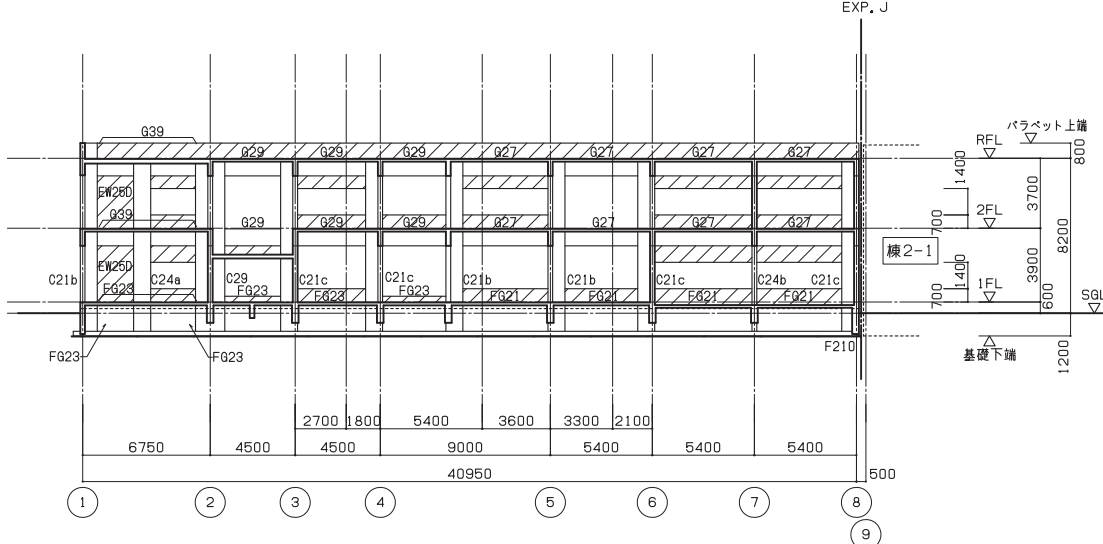
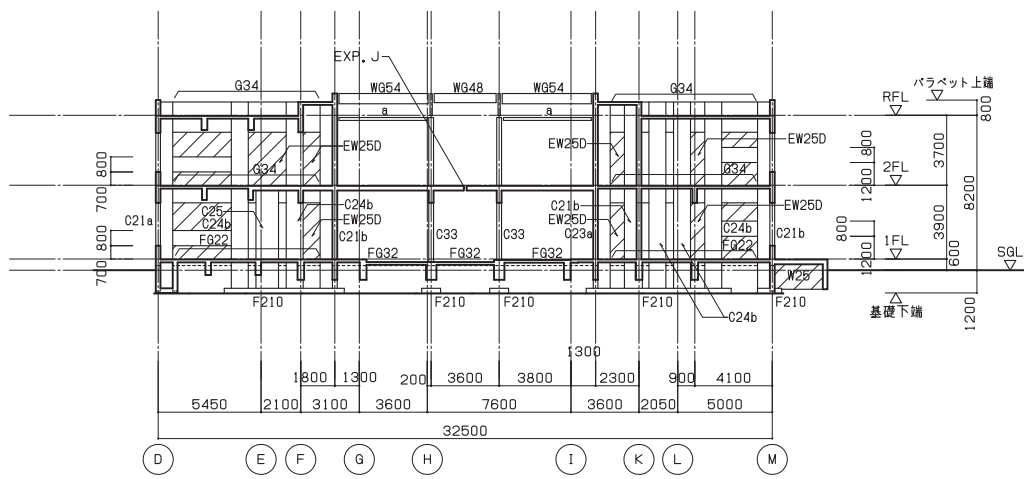
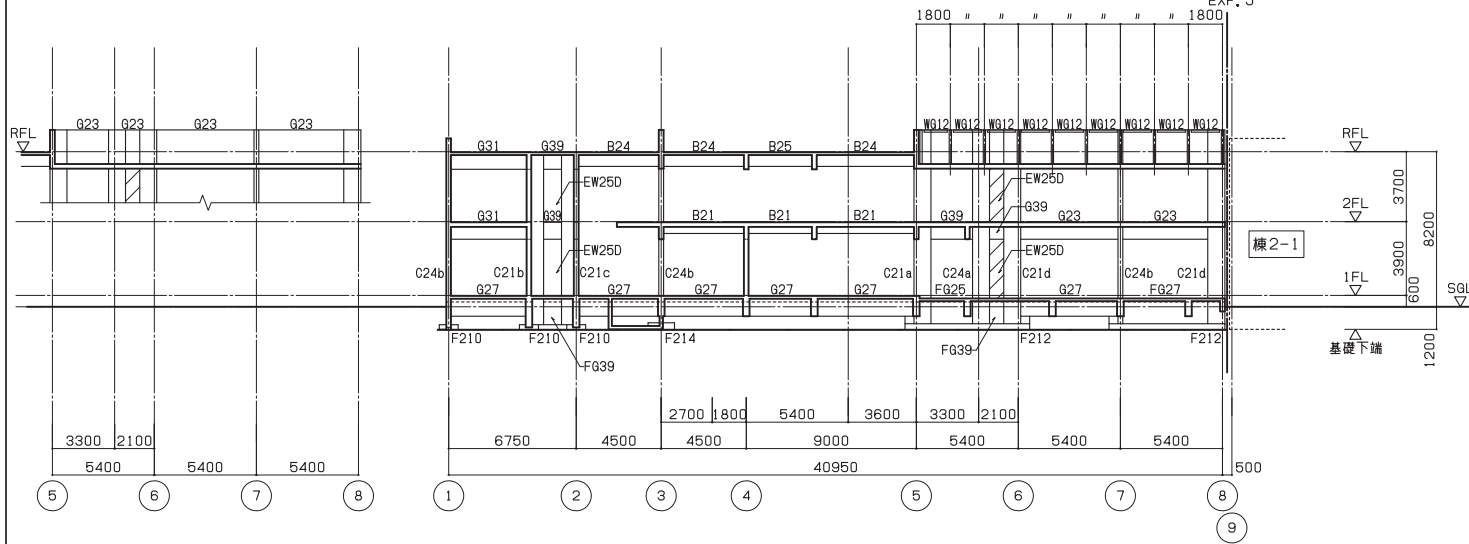
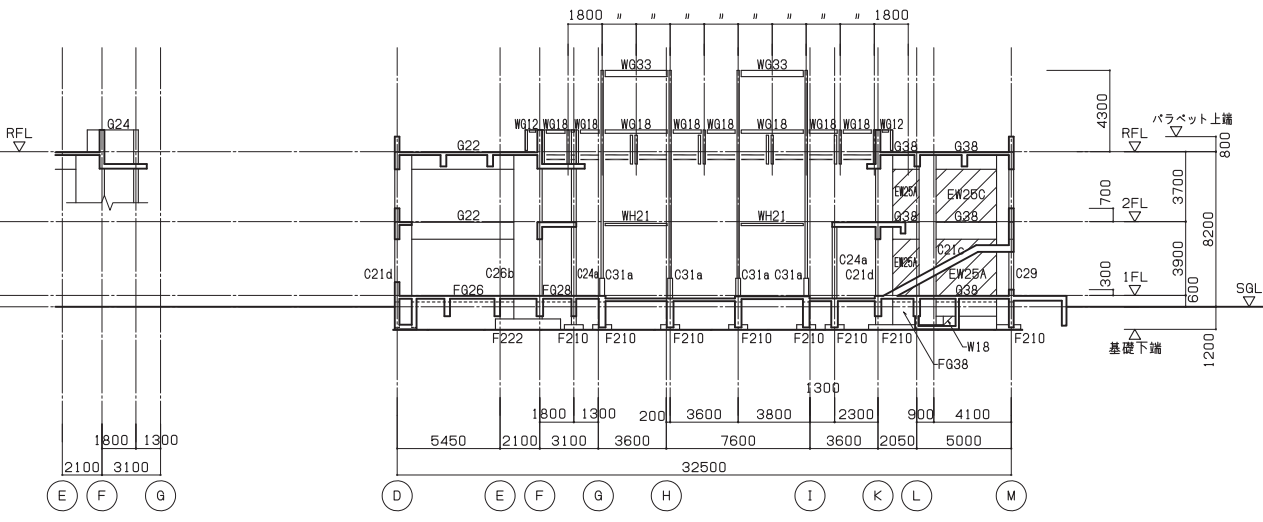
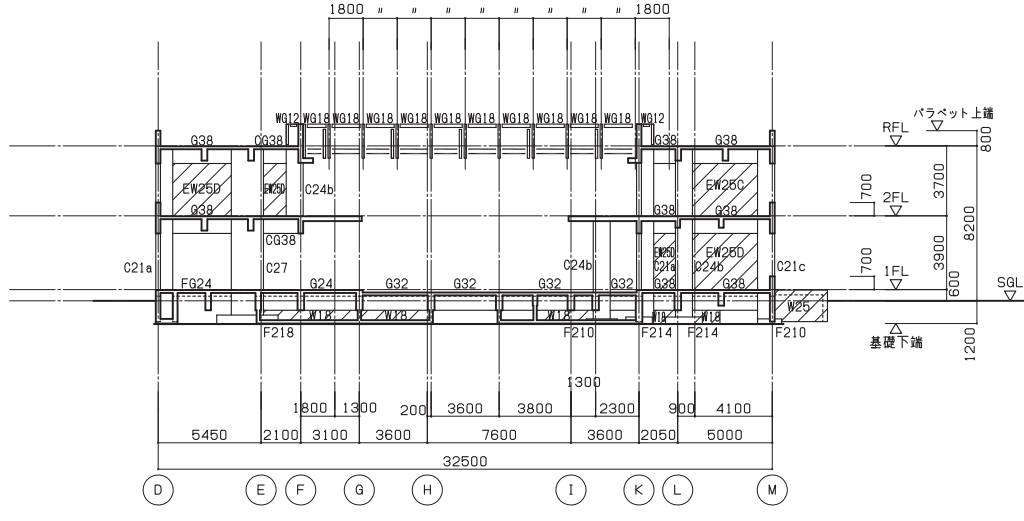
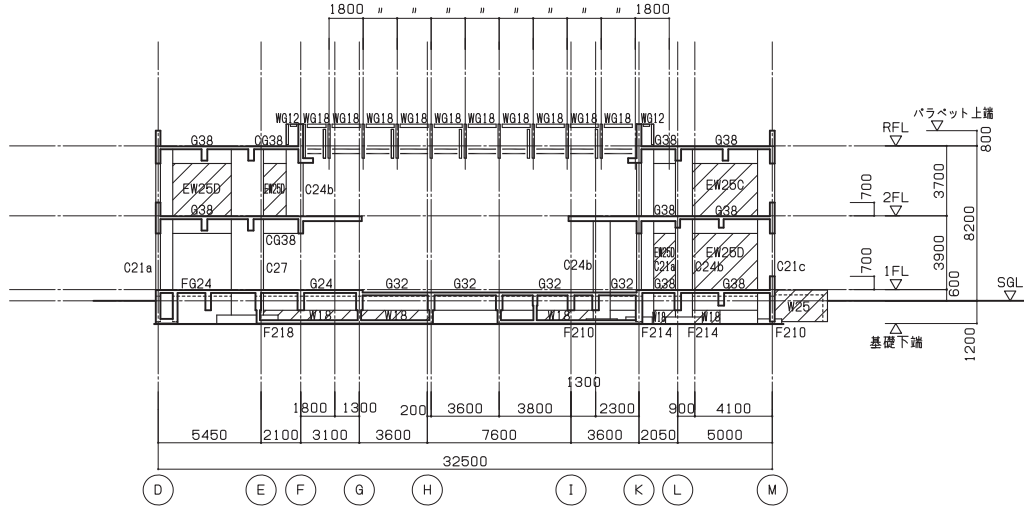
R階+4300mm木梁伏図

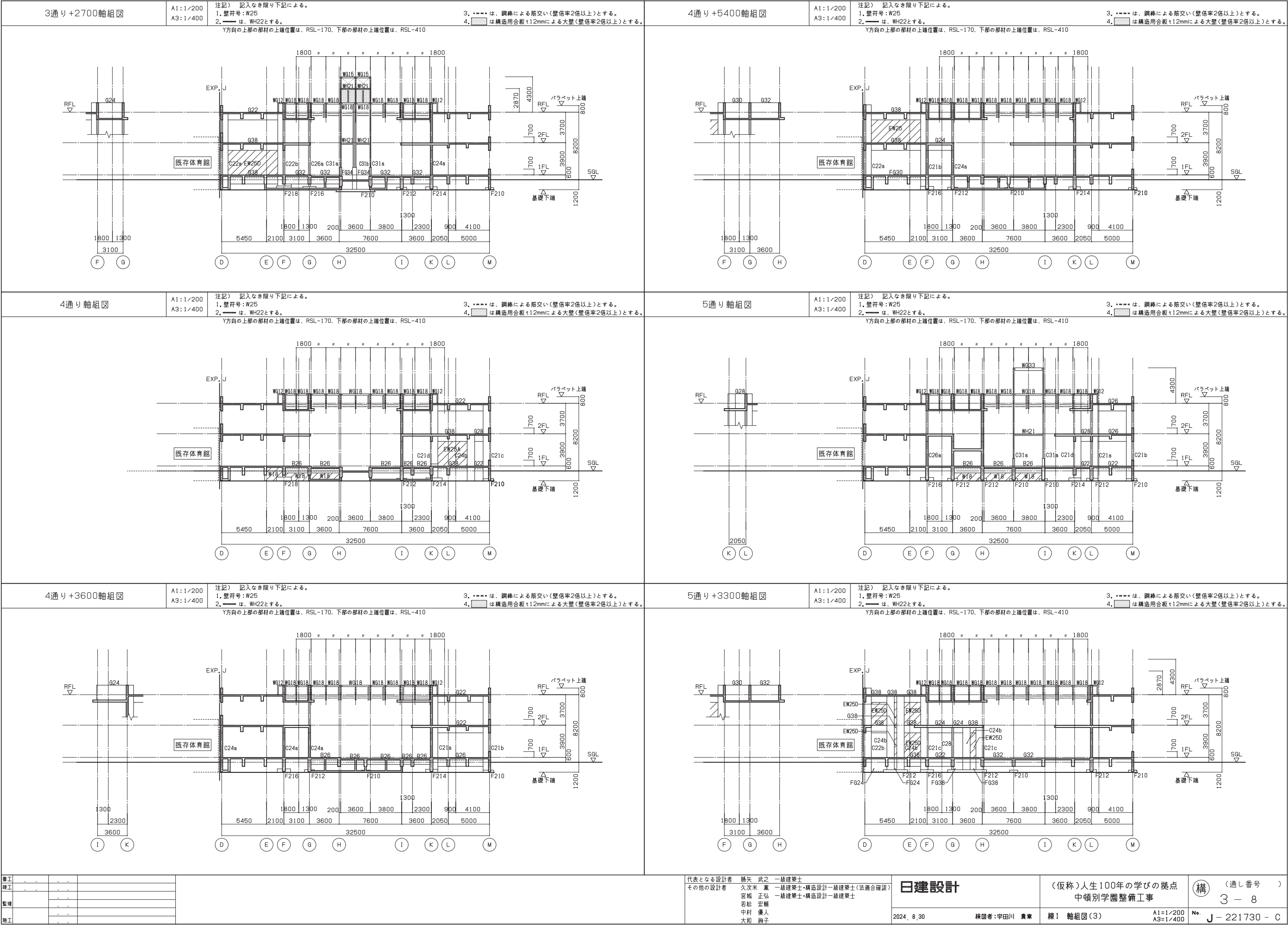


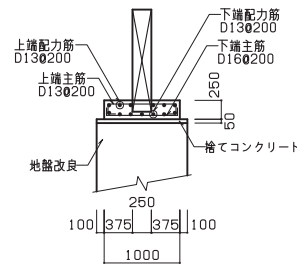
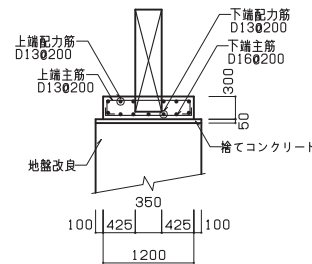
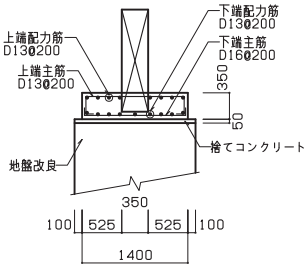
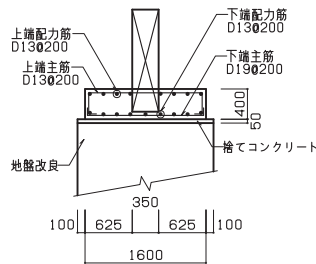
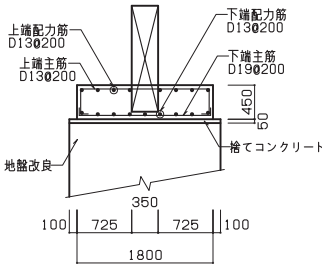
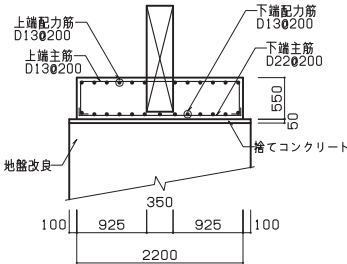
構造用合板仕様

凡 例		
構造用合板	t=24mm	t=12mm
釘打ち仕様	鉄丸釘N75φ75以内 梁組及び甲乙梁に釘付け (四隅打ち、日の字打ち)	鉄丸釘N75φ150以内 梁組及び甲乙梁に釘付け (四隅打ち、日の字打ち)
構造用合板継目位置に 設ける梁・根太との 取合い		

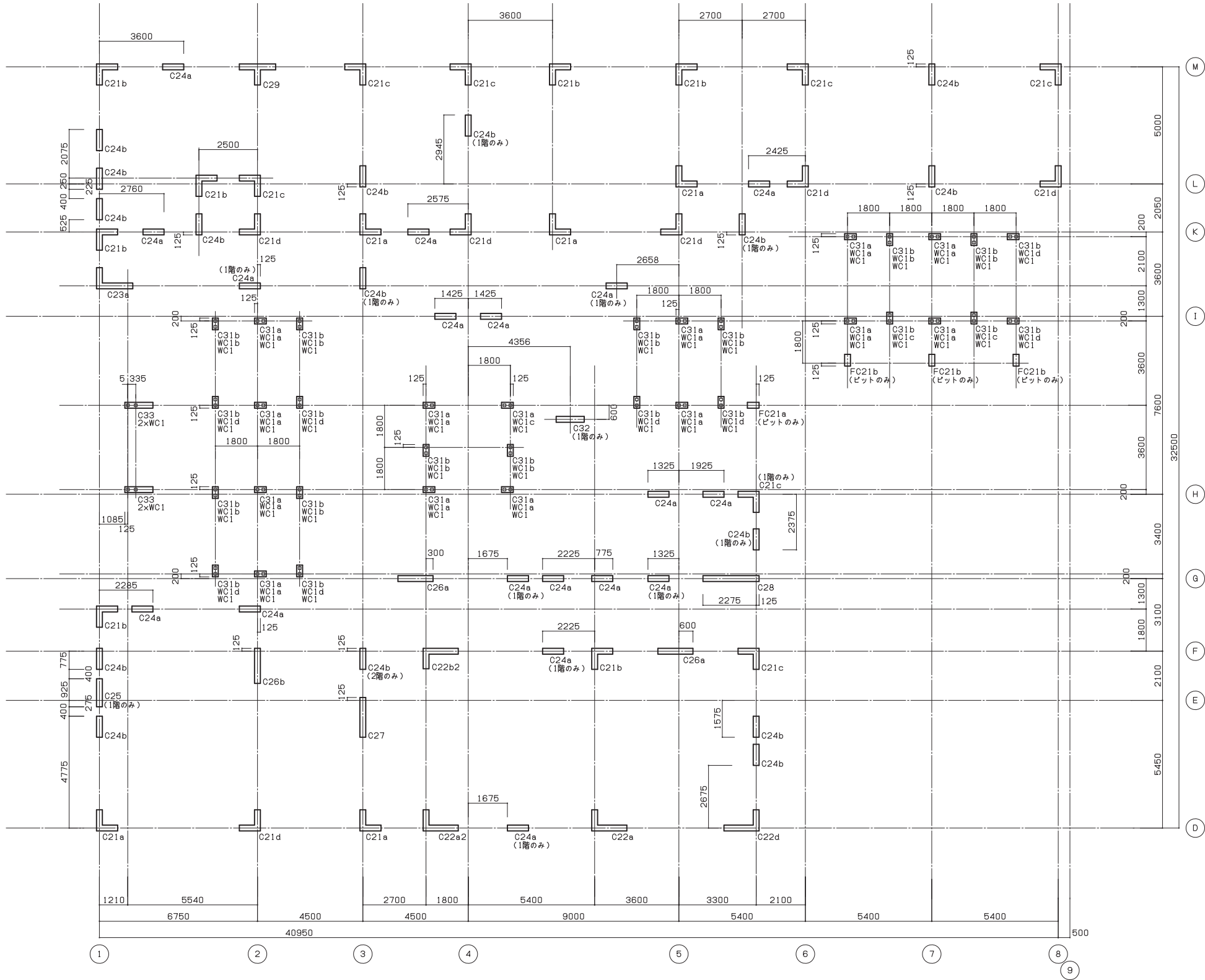


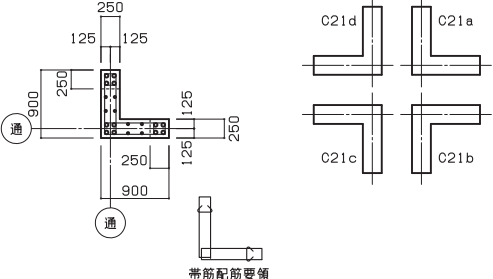
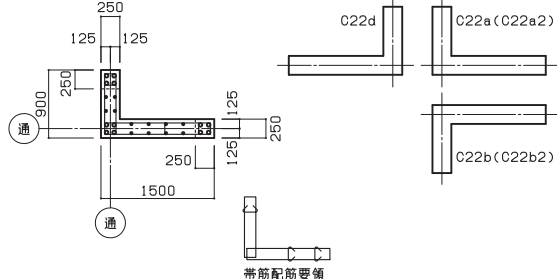
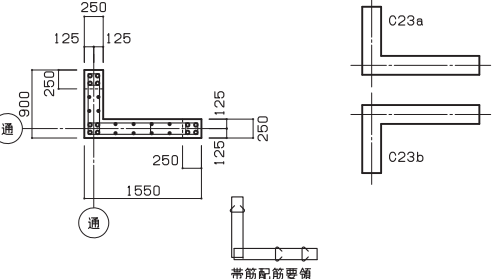
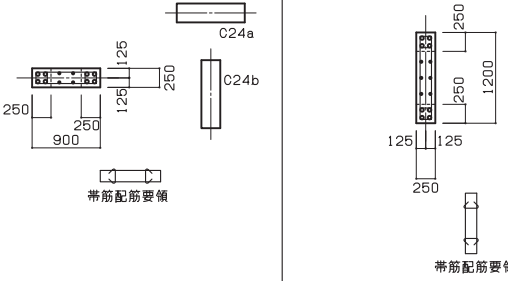
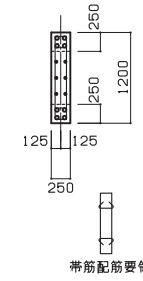
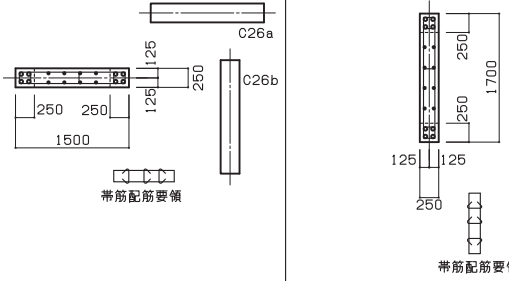
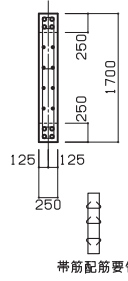
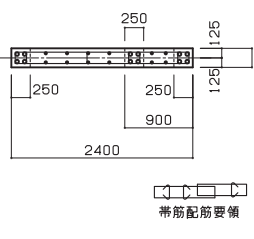
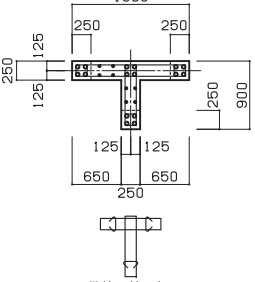
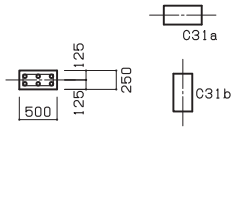
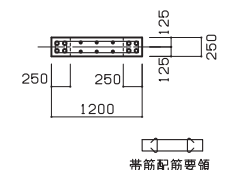
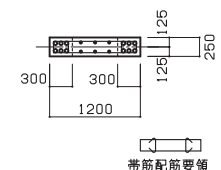
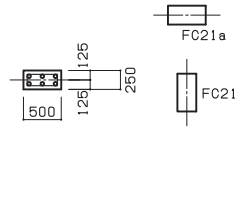
M通り 軸組図				1通り+1通り+1300軸組図																																										
A1:1/200 A3:1/400		注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2. 		A1:1/200 A3:1/400		注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2. 																																								
																																														
L通り 軸組図		A1:1/200 A3:1/400		2通り 軸組図		A1:1/200 A3:1/400																																								
注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2.  は、WH22とする。 3. - - - は、鋼筋による筋交い(壁倍率2倍以上)とする。 4.  は構造用合板t12mmによる大壁(壁倍率2倍以上)とする。 X方向の上部の部材の上端位置は、RSL-290、下部の部材の上端位置は、RSL-530		注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2.  は、WH22とする。 3. - - - は、鋼筋による筋交い(壁倍率2倍以上)とする。 4.  は構造用合板t12mmによる大壁(壁倍率2倍以上)とする。 Y方向の上部の部材の上端位置は、RSL-170、下部の部材の上端位置は、RSL-410		注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2.  は、WH22とする。 3. - - - は、鋼筋による筋交い(壁倍率2倍以上)とする。 4.  は構造用合板t12mmによる大壁(壁倍率2倍以上)とする。 Y方向の上部の部材の上端位置は、RSL-170、下部の部材の上端位置は、RSL-410		注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号: W25 2.  は、WH22とする。 3. - - - は、鋼筋による筋交い(壁倍率2倍以上)とする。 4.  は構造用合板t12mmによる大壁(壁倍率2倍以上)とする。 Y方向の上部の部材の上端位置は、RSL-170、下部の部材の上端位置は、RSL-410																																								
																																														
3通り 軸組図				3通り 軸組図																																										
																																														
<table><tr><td>審工</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>校工</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>監理</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>施工</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				審工						校工				監理				施工				<table><tr><td>代表となる設計者</td><td>勝矢 武之</td><td>一級建築士</td></tr><tr><td>その他の設計者</td><td>久次米 薫</td><td>一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認)</td></tr><tr><td></td><td>宮城 正弘</td><td>一級建築士・構造設計一級建築士</td></tr><tr><td></td><td>若松 宏輔</td><td></td></tr><tr><td></td><td>中村 優人</td><td></td></tr><tr><td></td><td>大和 絢子</td><td></td></tr></table>				代表となる設計者	勝矢 武之	一級建築士	その他の設計者	久次米 薫	一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認)		宮城 正弘	一級建築士・構造設計一級建築士		若松 宏輔			中村 優人			大和 絢子		日建設計		(仮称)人生100年の学びの拠点 中頓別学園整備工事
審工																																														
校工																																														
監理																																														
施工																																														
代表となる設計者	勝矢 武之	一級建築士																																												
その他の設計者	久次米 薫	一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認)																																												
	宮城 正弘	一級建築士・構造設計一級建築士																																												
	若松 宏輔																																													
	中村 優人																																													
	大和 絢子																																													
2024. 8. 30		検図者: 宇田川 貴章		棟1 軸組図(2)		A1=1/200 A3=1/400																																								

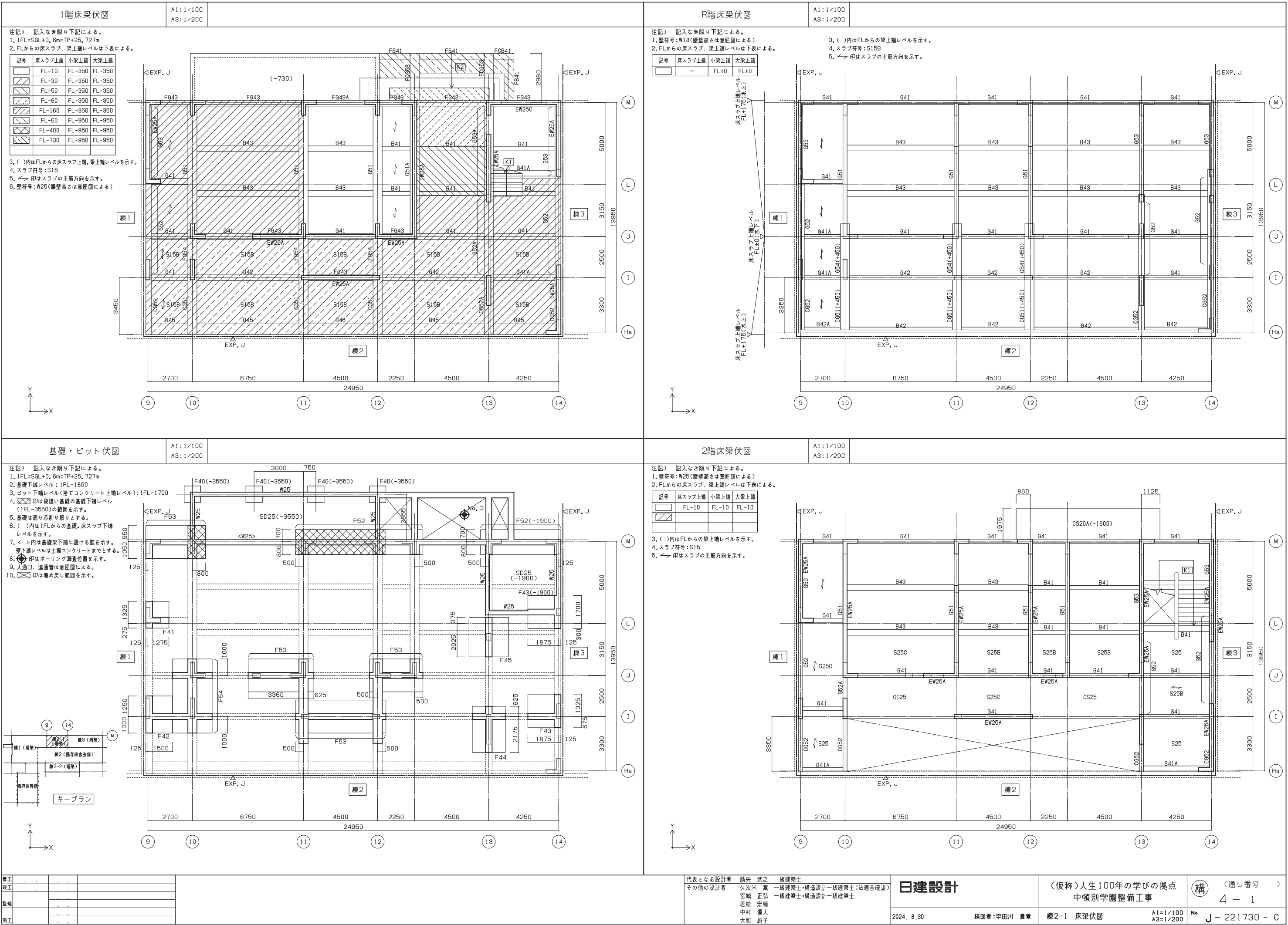


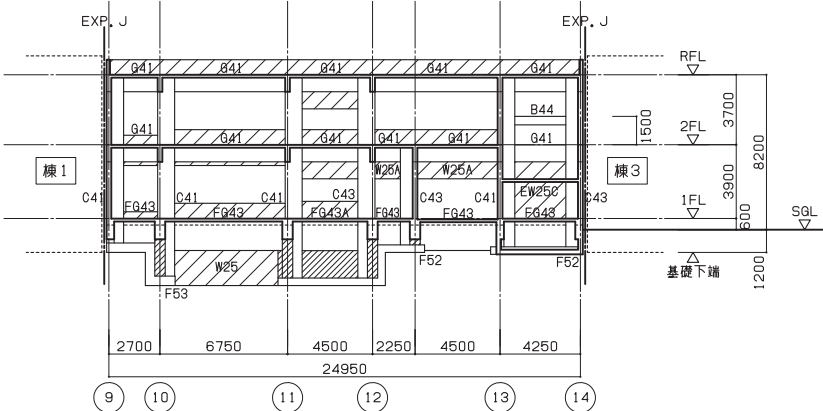
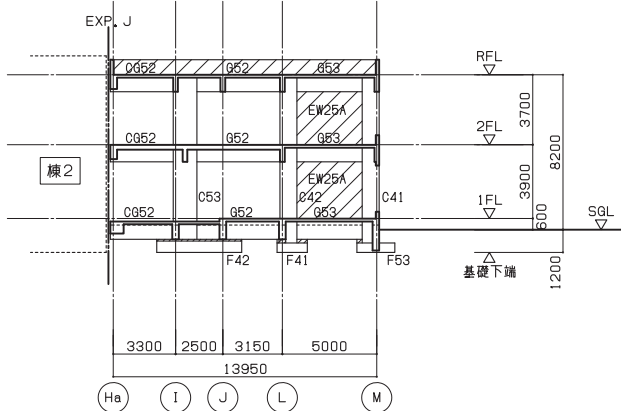
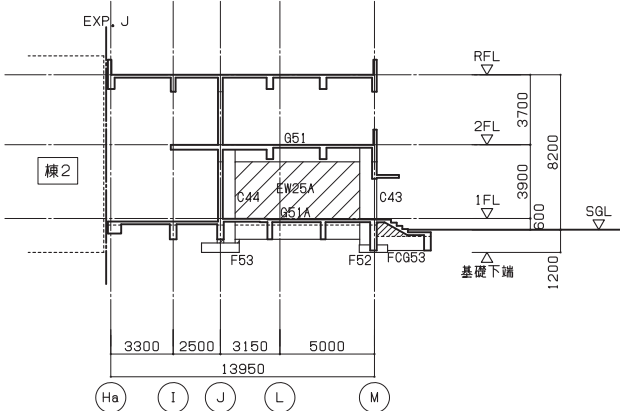
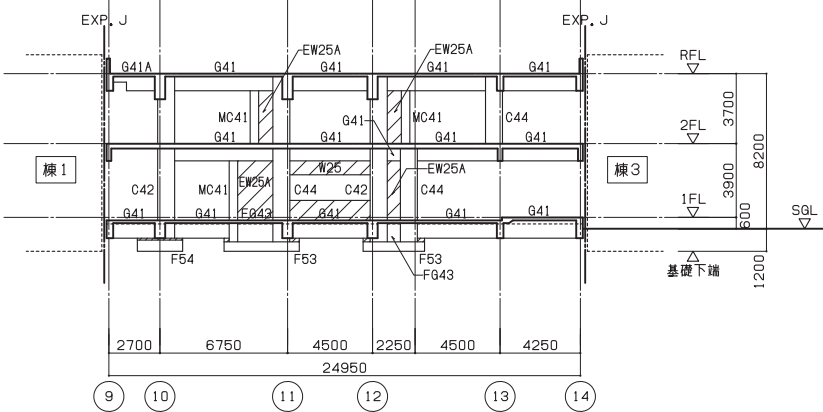
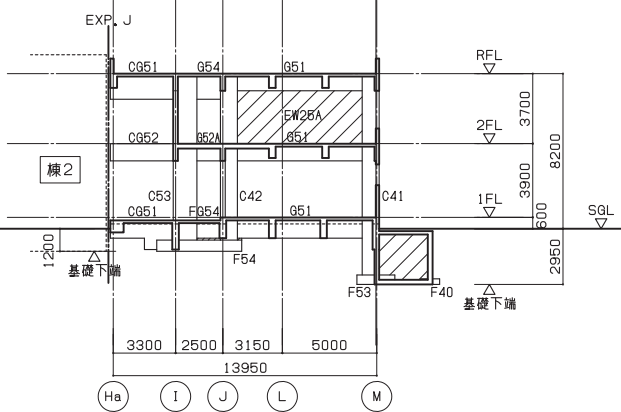
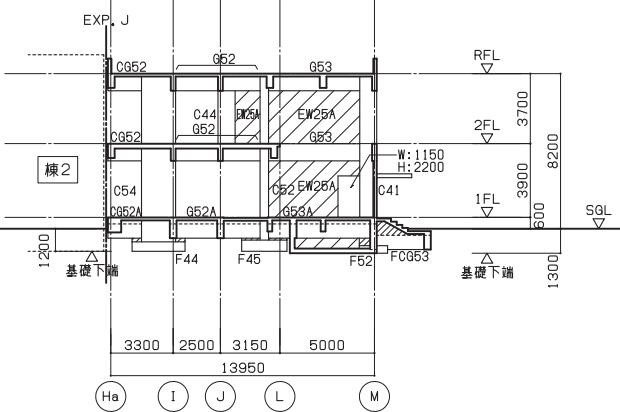
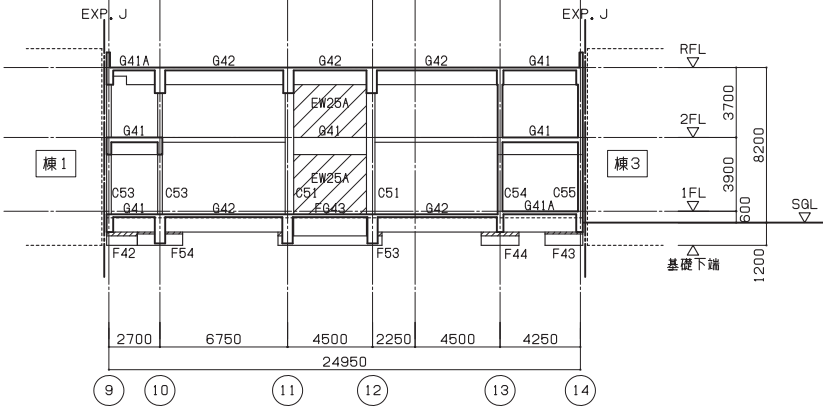
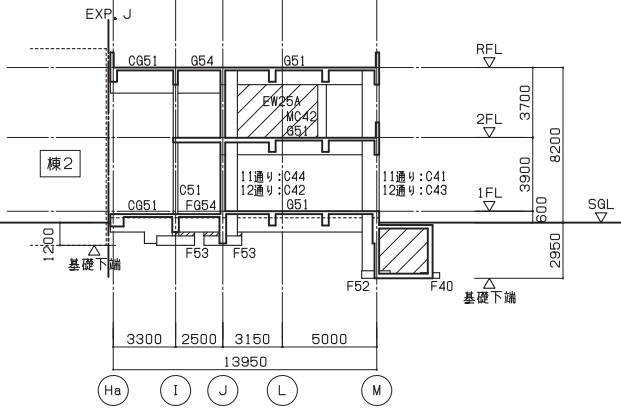
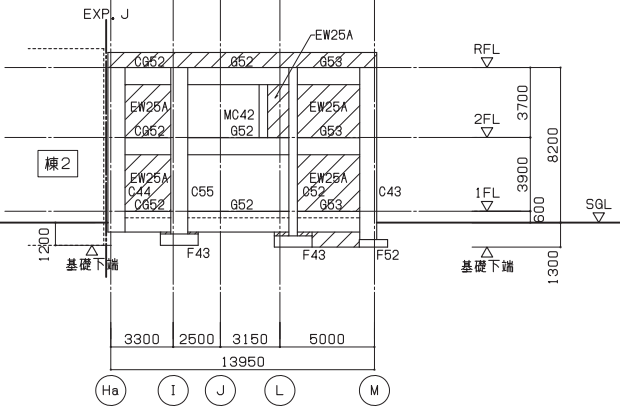
基礎断面表		A1:1/50 A3:1/100		注記) 記入なき限り下記による。									
F210		F212		F214		F216		F218		F222			
													

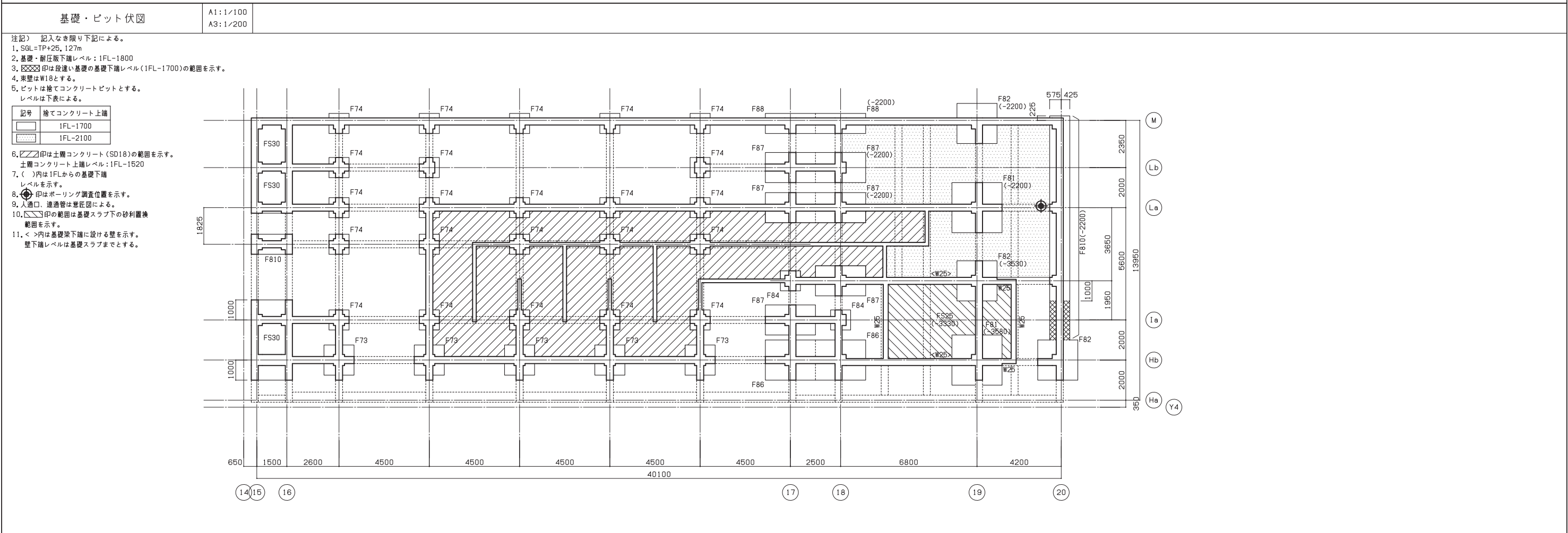
審工 理工 監理 施工			代表となる設計者 勝矢 武之 一級建築士 その他の設計者 久次米 薫 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一級建築士・構造設計一級建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 純子	日建設計	(仮称)人生100年の学びの拠点 中頓別学園整備工事	No. 3-10	A1=1/ 50 A3=1/100	棟1 基礎断面表	2024. 8.30	検図者:宇田川 貴章	棟1 基礎断面表	A1=1/ 50 A3=1/100	No. J-221730-C
													
													
													

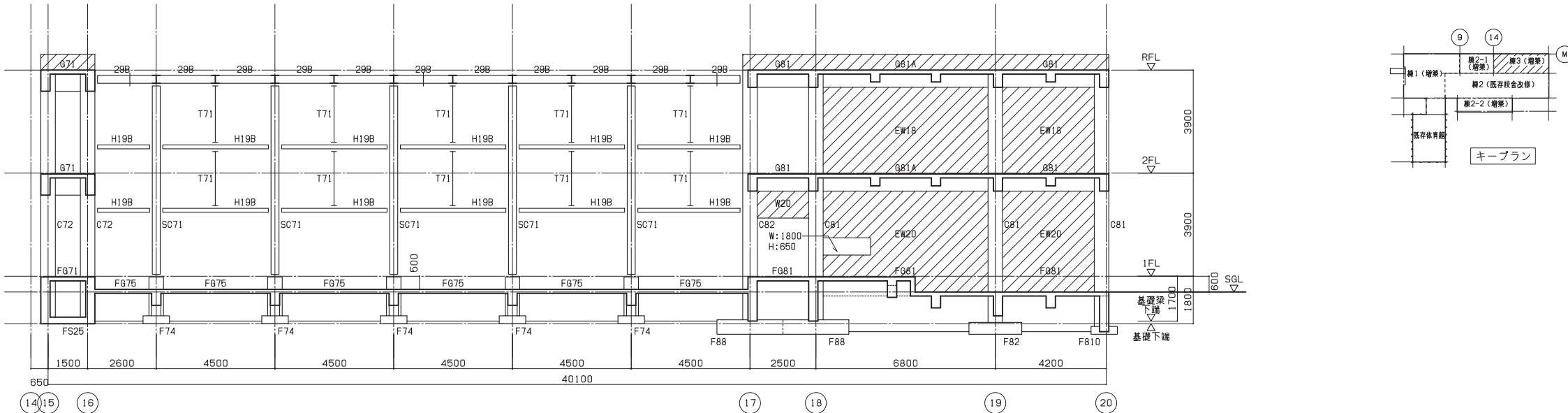
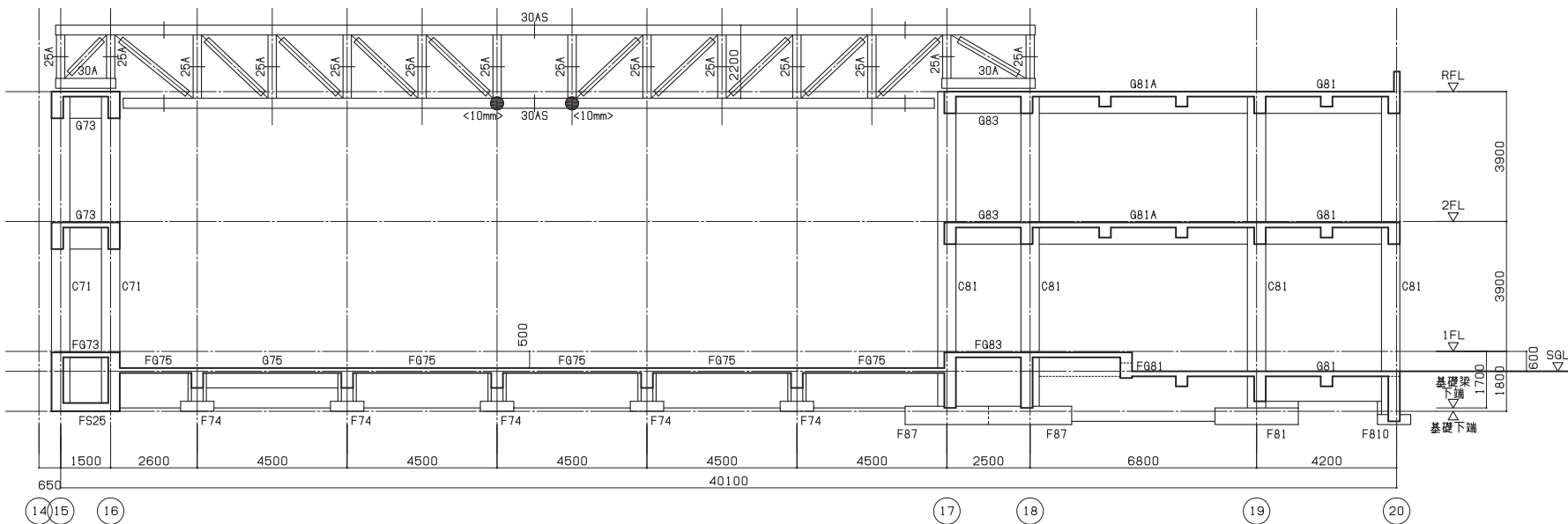
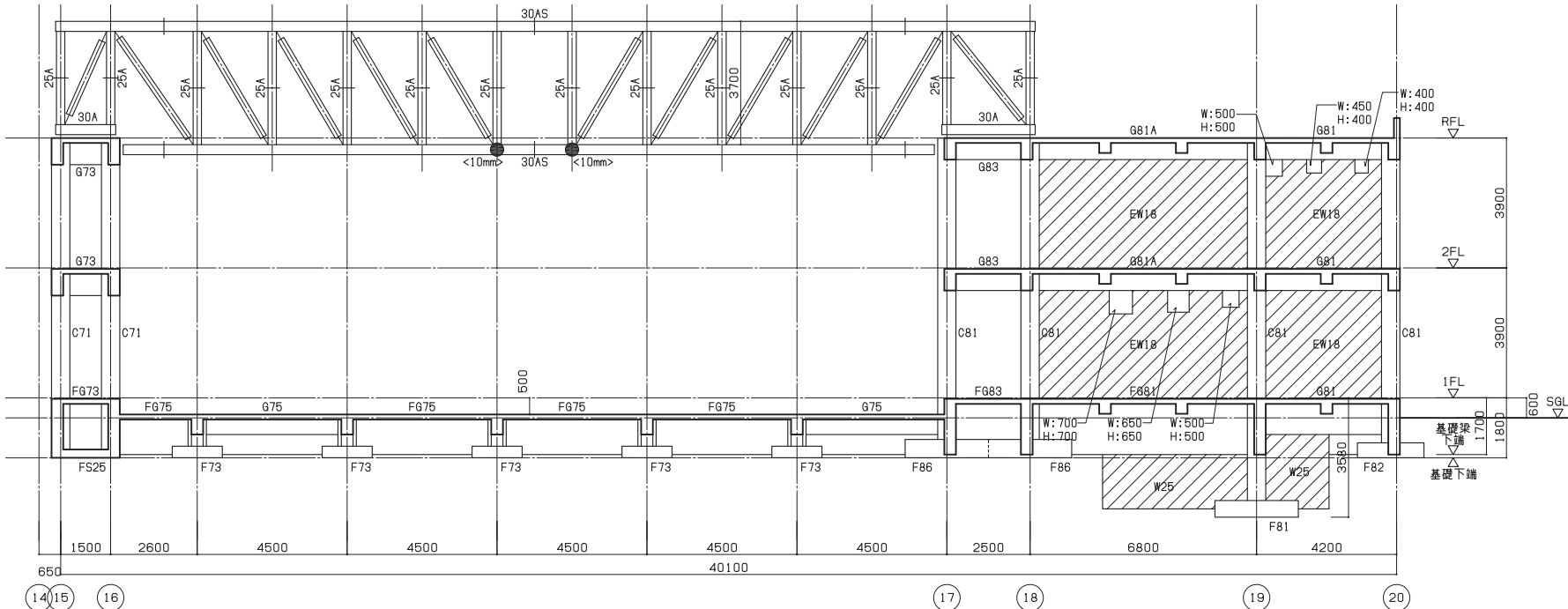


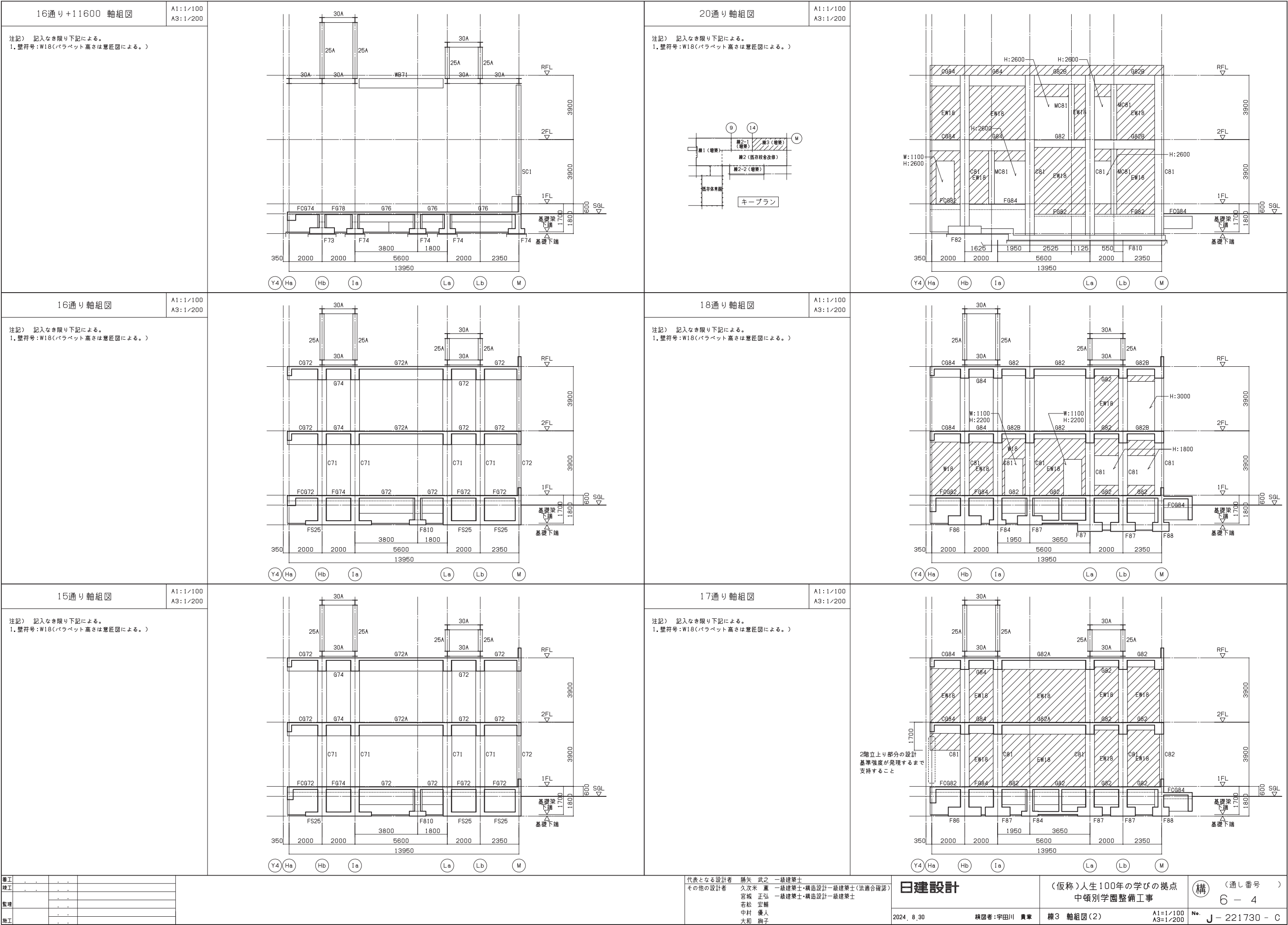
柱断面表			A1:1/50 A3:1/100	注記) 記入なき限り下記による。									
符 号	C21a～C21d			C22a, C22b, C22d(C22a2, C22b2)			C23a, C23b						
断 面													
	主 筋 12-D19+8-D13			12-D19+12-D13(24-D19)			12-D19+12-D13						
	帯 筋 Ⅲ-D10 ⑩100			Ⅲ-D10 ⑩100			Ⅲ-D10 ⑩100						
	補 助 筋			()内はC22a2, C22b2を示す。									
備 考													
符 号	C24a, C24b		C25	C26a, C26b		C27	C28	C29					
断 面													
	主 筋 8-D19+4-D13		8-D19+6-D13	8-D19+8-D13		8-D19+8-D13	12-D19+12-D13	12-D22+12-D13					
	帯 筋 Ⅲ-D10 ⑩100		Ⅲ-D10 ⑩100	Ⅲ-D10 ⑩100		Ⅲ-D10 ⑩100	Ⅲ-D10 ⑩100	Ⅲ-D10 ⑩100					
	補 助 筋												
備 考													
符 号	C31a, C31b		C32	C33				FC21a, FC21b					
断 面													
	主 筋 6-D19		8-D19+6-D13	12-D19+6-D13				6-D19					
	帯 筋 Ⅲ-D10 ⑩100		Ⅲ-D10 ⑩100	Ⅲ-D10 ⑩100				Ⅲ-D10 ⑩100					
	補 助 筋												
備 考													
備 考													
審 工				代表となる設計者 勝矢 武之 一級建築士 その他の設計者 久次米 薫 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一級建築士・構造設計一級建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 絢子				日建設計		(仮称)人生100年の学びの拠点 中頓別学園整備工事		No. 3 - 13	
検 工													
監 理													
施 工													
2024. 8.30								検図者:宇田川 貴章		棟1 柱断面表		A1=1/ 50 A3=1/100	
												No. J - 221730 - C	

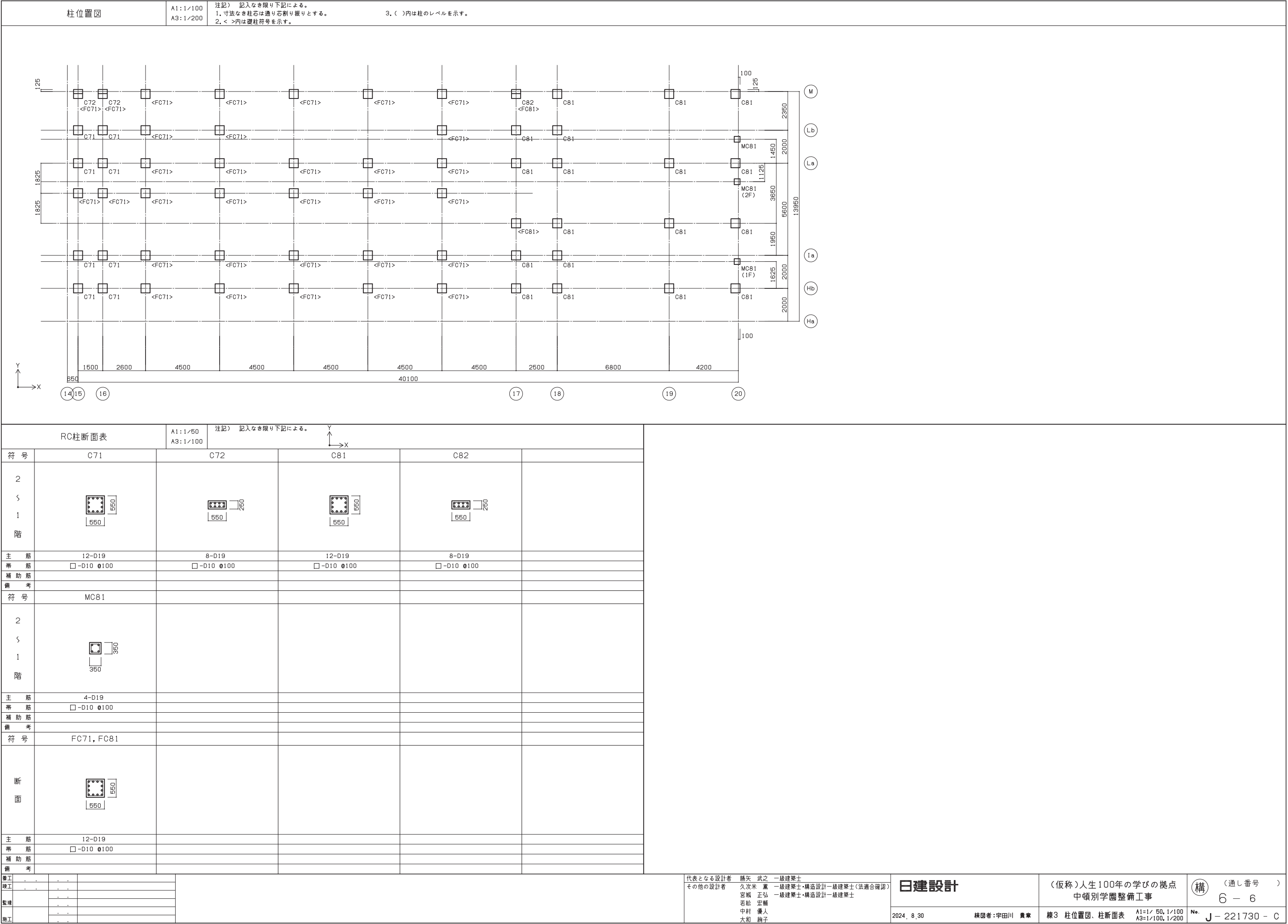


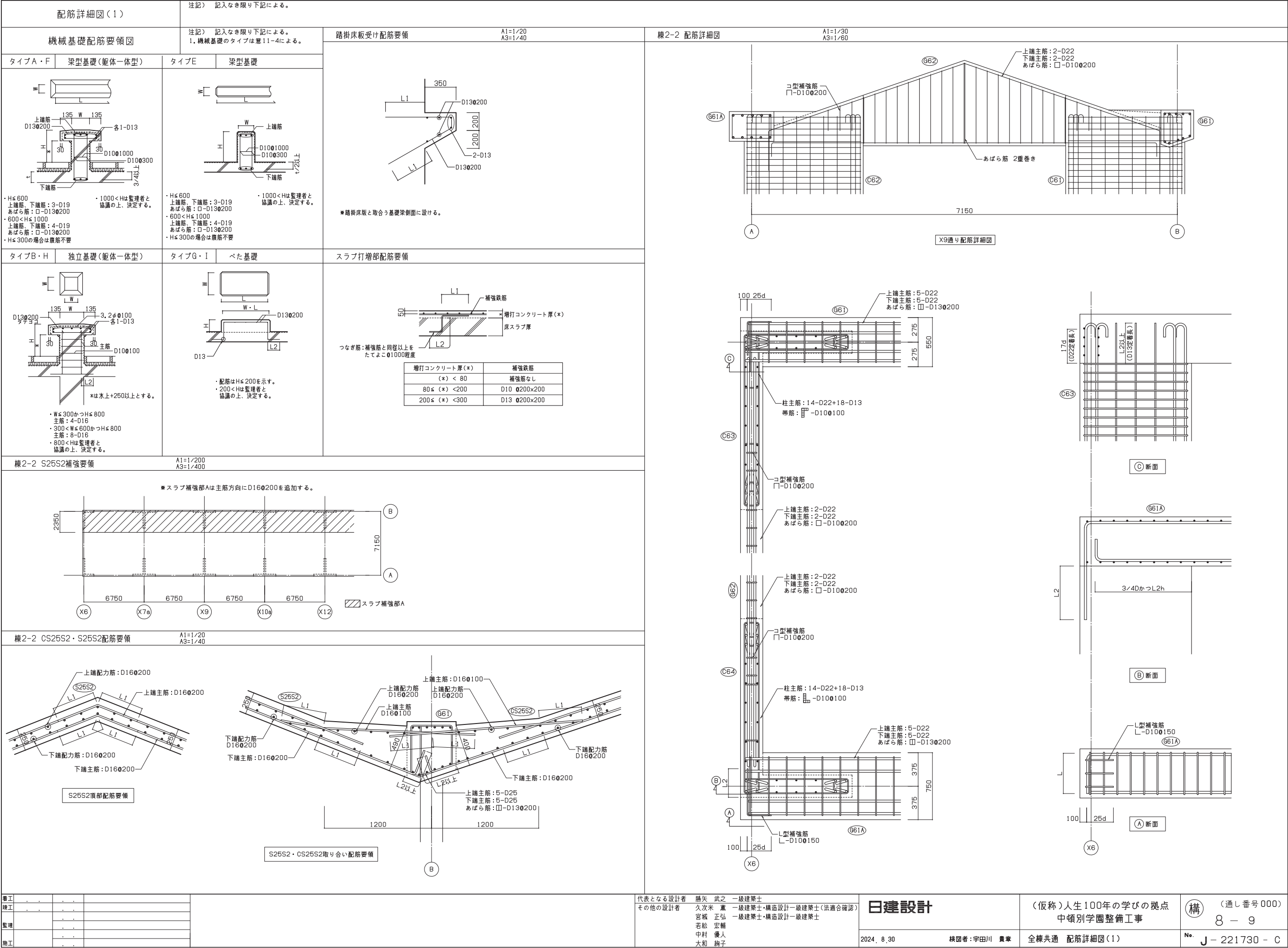
M通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号:W25 2.  印は打増し範囲を示す。	9通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1.  印は打増し範囲を示す。	12通り+2250軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1.  印は打増し範囲を示す。						
																							
J通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1.  印は打増し範囲を示す。	10通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号:W25 2.  印は打増し範囲を示す。	13通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号:W25 2.  印は打増し範囲を示す。						
																							
I通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1.  印は打増し範囲を示す。	11・12通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号:W25 2.  印は打増し範囲を示す。	14通り 軸組図				A1:1/200 A3:1/400	注記) 記入なき限り下記による。 1. 壁符号:W25 2.  印は打増し範囲を示す。						
																							
審工				4-02_中頃別 棟2-1軸組図.dwg_1/200_24/08/28				代表となる設計者	勝矢 武之 一級建築士			日建設計				(仮称)人生100年の学びの拠点 中頃別学園整備工事				構 (通し番号) 4 - 2			
竣工								その他の設計者	久次米 薫 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一級建築士・構造設計一級建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 絢子														
監理																							
施工																							
								2024, 8, 30				検図者:宇田川 貴章				棟2-1 軸組図				A1=1/200 A3=1/400	No.	J - 221730 - C	

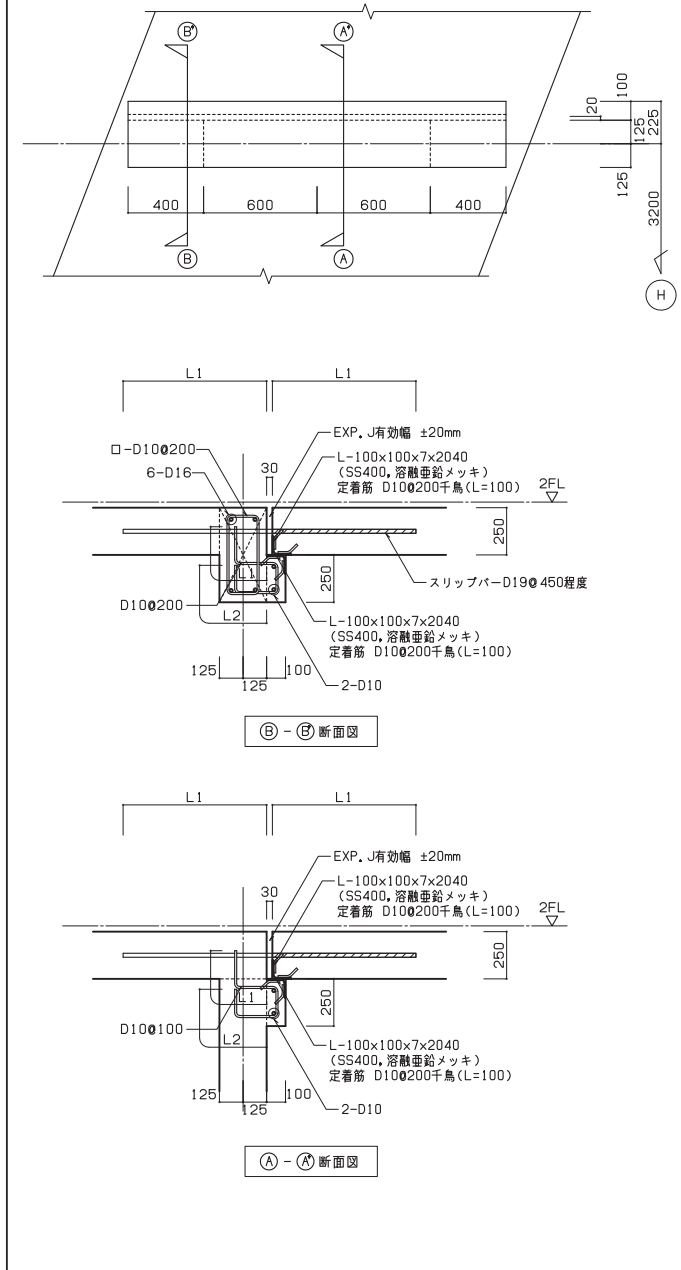
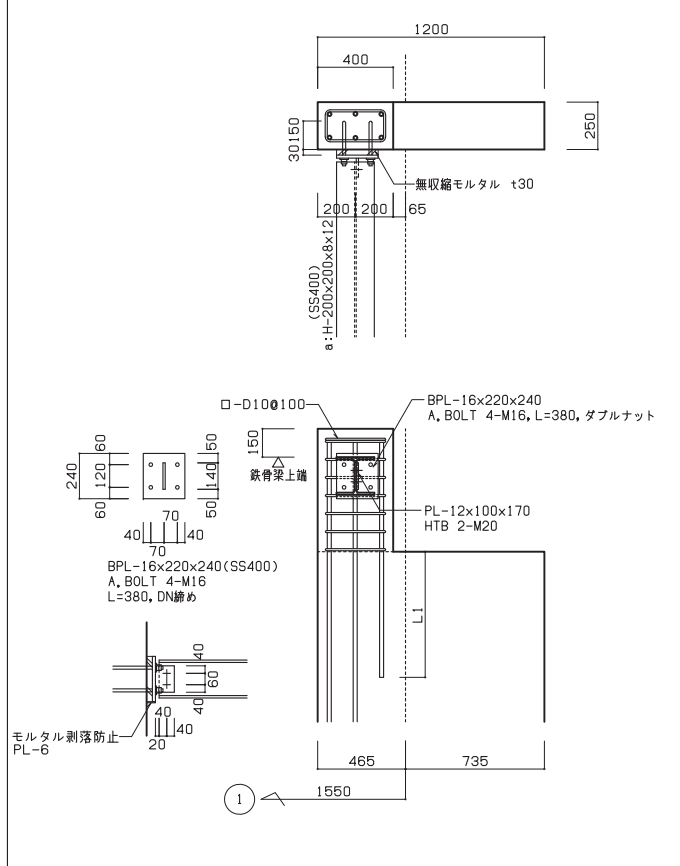
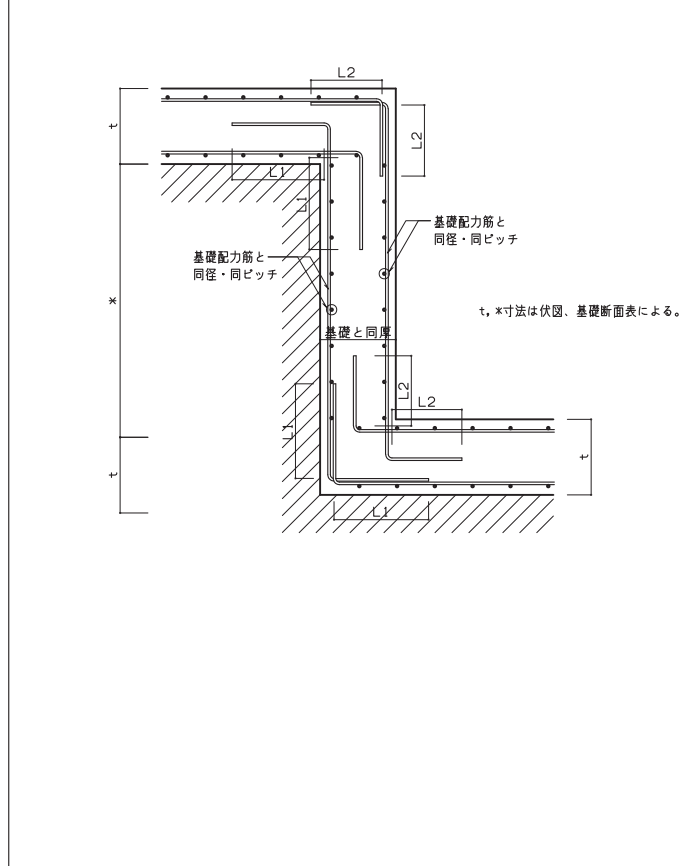
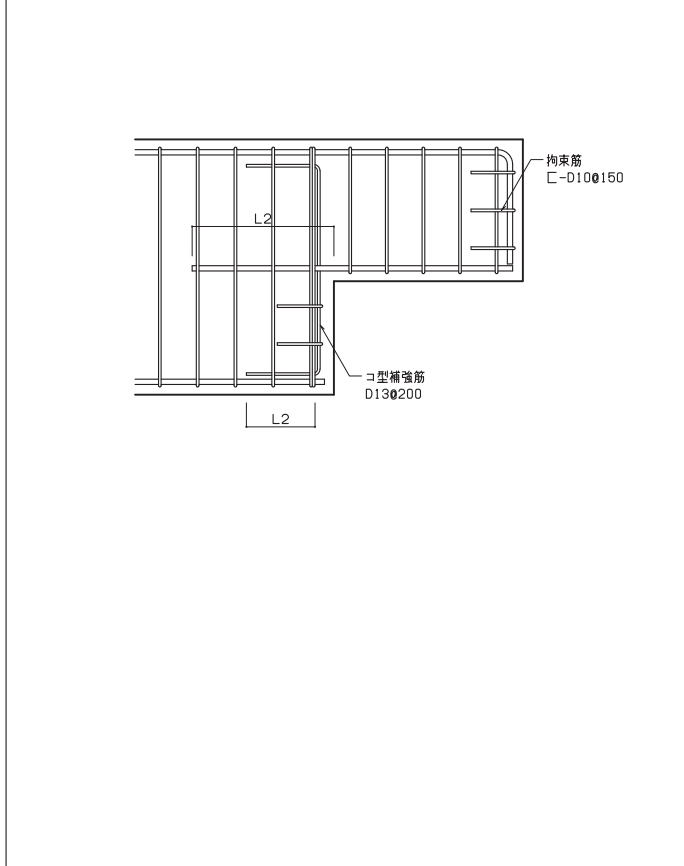
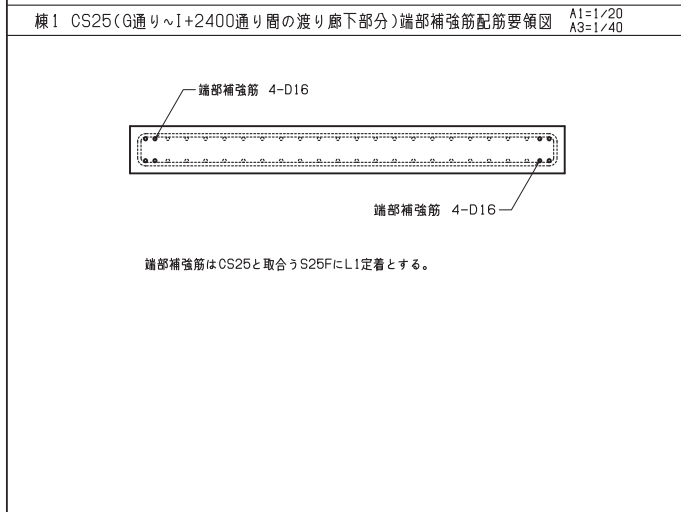
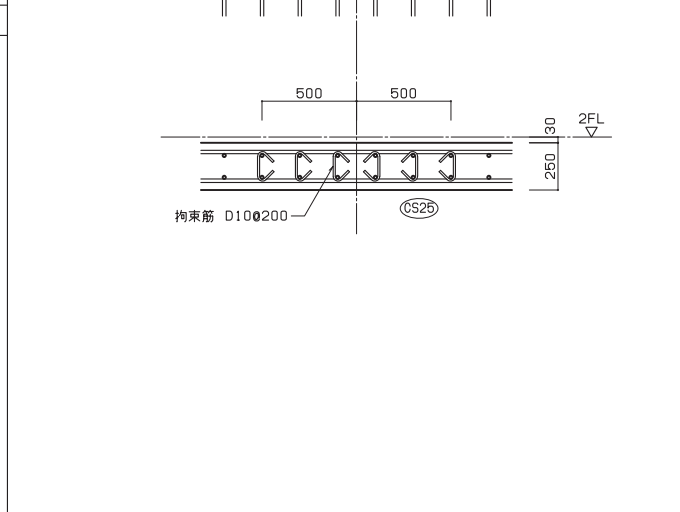


M通り 軸組図			A1:1/100 A3:1/200											
La通り 軸組図			A1:1/100 A3:1/200											
Hb通り 軸組図			A1:1/100 A3:1/200											
審工				代表となる設計者 勝矢 武之 一般建築士			日建設計			(仮称)人生100年の学びの拠点 中頓別学園整備工事			(通し番号) 6 - 3	
竣工				その他の設計者 久次米 薫 一般建築士・構造設計一般建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一般建築士・構造設計一般建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 樹子			2024. 8. 30			検図者:宇田川 貴章			A1=1/100 A3=1/200	
監理										棟3 軸組図(1)			No. J - 221730 - C	
施工														







配筋詳細図(2)			注記) 記入なき限り下記による。																			
棟1 2階H通+3200, 4通-5通周渡り廊下Exp, J配筋要領図			A1=1/20 A3=1/40	棟1 R階1通+1300, 鉄骨とRC柱頭部の取合い部配筋要領図			A1=1/20 A3=1/40	棟2-1・棟3 段差基礎配筋要領			A1=1/20 A3=1/40	棟2-1・棟2-2・棟3 片持ち段差梁配筋要領			A1=1/20 A3=1/40							
																						
棟1 CS25(G通り~I+2400通り間の渡り廊下部分)端部補強筋配筋要領図			A1=1/20 A3=1/40	棟1 CS25せん断補強筋配筋要領図			A1=1/20 A3=1/40															
																						
表工 棟工 監理 施工				代表となる設計者 その他の設計者			勝矢 武之 久次米 薫 宮城 正弘 若松 宏輔 中村 優人 大和 樹子	一級建築士 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 一級建築士・構造設計一級建築士			日建設計			(仮称)人生100年の学びの拠点 中頃別学園整備工事			(通し番号000) 8-10					
											2024. 8. 30			校図者:宇田川 貴章			全棟共通 配筋詳細図(2)			No. J-221730-C		

溶接記号										
被覆アーク溶接・ガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接	$t \leq 6$									
	$6 < t \leq 16$									
	$16 < t \leq 100$									

溶接記号							溶接記号の記載方法		
溶接方法	分類		記号						
	被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接		H						
	セルフシールドアーク溶接		A						
	サブマージアーク溶接		E						
エレクトロスラグ溶接		E							
溶接継手	完全溶込み溶接	突合せ継手	B						
		突合せ継手(V開先)	BV						
		突合せ継手(柱の現場溶接)	BPT						
			BPU						
		T形継手	T						
	部分溶込み溶接	かど継手	L						
		かど継手(溶接箱形柱)	LB						
		一般	P						
	隅肉溶接	かど継手(溶接箱形柱)	LP						
		一般	F						
		柱梁仕口	FF						
		山形鋼と鋼板	FA						
鋼管と鋼板		FC							
フレア溶接	鋼管と鋼管	FP							
	鉄筋	FL							
	軽量形鋼等	FLC							
溶接面	片面溶接		1						
	両面溶接		2						

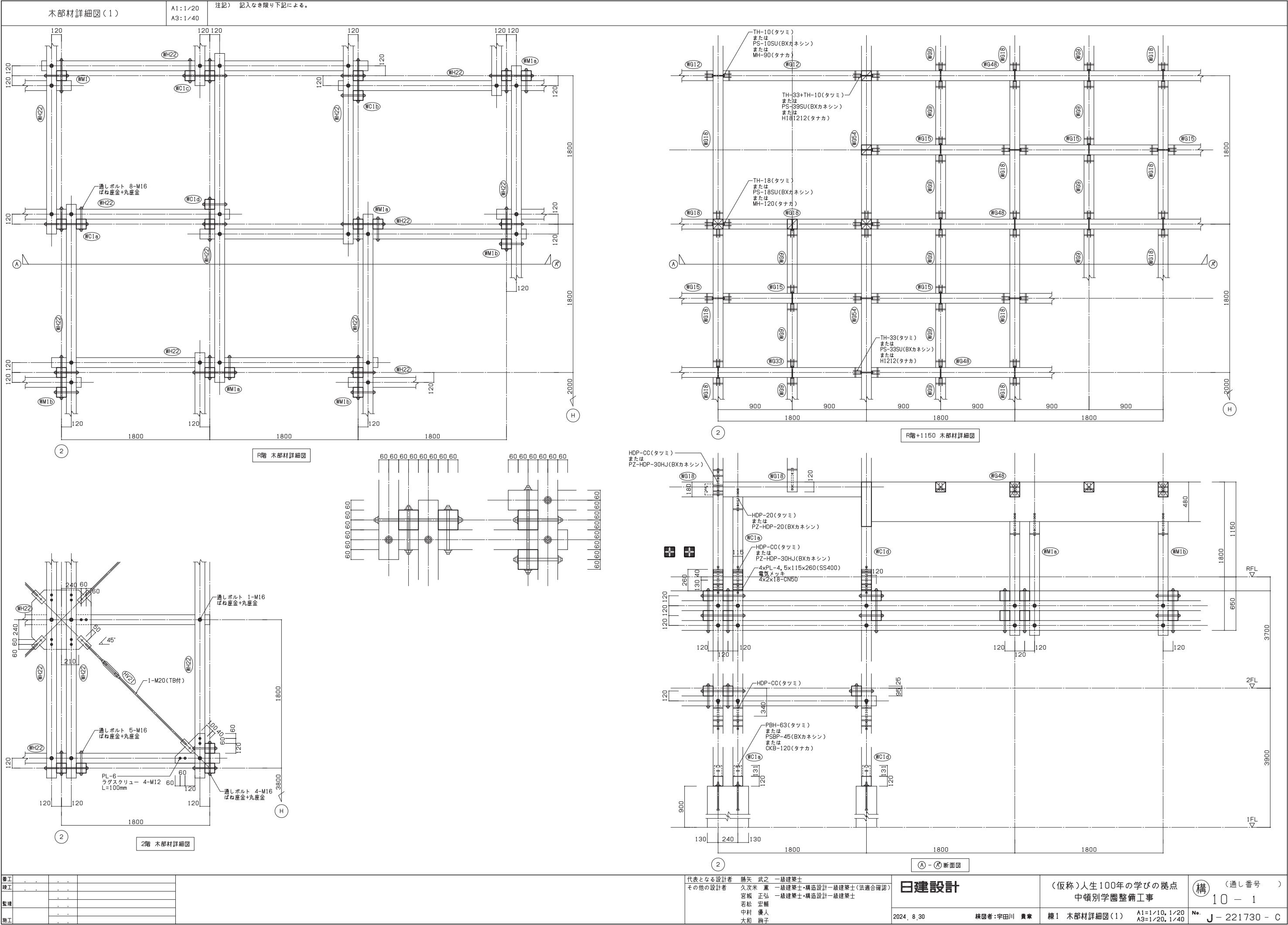
注1、溶接面記号に K の添字のあるものは、T形継手の傾斜取合を示す。

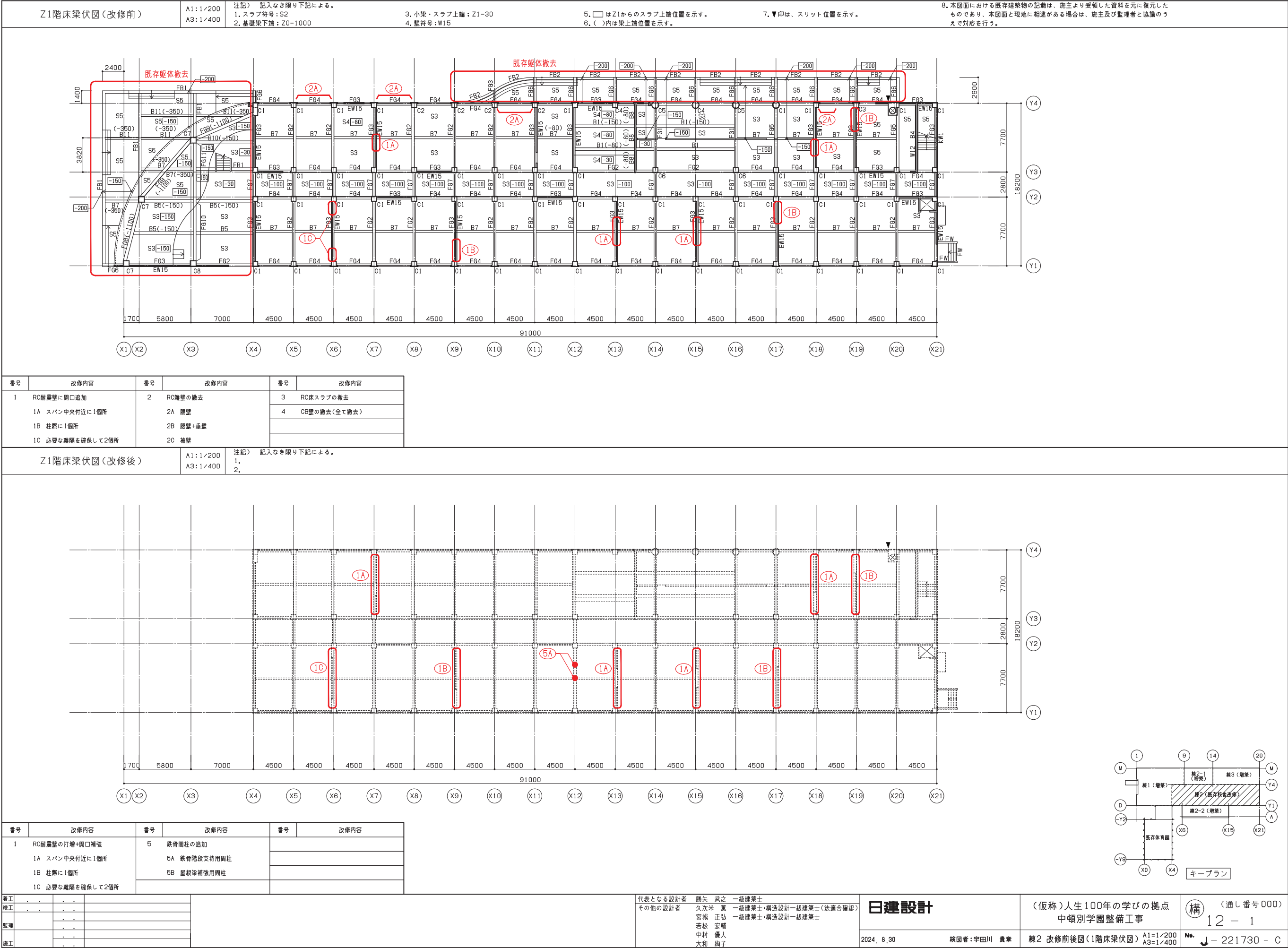
注2、溶接方法記号、溶接面記号に特記のない場合は、其々において、適切な溶接方法、溶接面数を選択してよい。

審工			注)1、裏当て金の材質は原則として母材と同等以上とする。 ただし、母材材質がS20N級以上の場合は、監理者と協議の上、 490N級とすることが出来る。また、板厚・サイズは参考とする。	3、監理者の承認を得た場合は、基準図と異なる開先形状とする ことが出来る。	代表となる設計者 その他の設計者	勝矢 武之 一級建築士 久次米 薫 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一級建築士・構造設計一級建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 樹子	日建設計	(仮称)人生100年の学びの拠点 中頃別学園整備工事	(構) (通し番号***) 9 - 1	
竣工			2、サブマージアーク溶接にて完全溶込溶接を両面溶接とする場合、 完全な溶込が得られたことが確認できる場合は、監理者の承認 を得て、裏はつり(※印)を省略することができる。	4、余盛高さは、特記なき限りJASS6による。						
監理										
施工							2024. 8. 30	校図者: 宇田川 貴章	溶接開先基準図(1)	No. J - 221730 - C

9-01_中頃別 溶接開先基準図01, DWG_1/1_24/02/06

*02, 09, 25訂正 仕様書委員会 作成
*20, 08, 06 改定 金属研究会 作成





耐震壁解体範囲図				注記) 記入なき限り下記による。 1. 2.																			
撤 去				改 修				改修範囲															
1A									所属通	通芯		階		開口位置	躯体開口幅	躯体開口高							
										*1	*2	*3	*4	*5	W	H							
										X7	Y3	Y4	1FL	2FL	2600	1400	2100						
										X13	Y1	Y2	1FL	2FL	2800	2100	2100						
										X15	Y1	Y2	1FL	2FL	2800	2100	2100						
1B									所属通	通芯		階		躯体開口幅	躯体開口高								
										*1	*2	*3	*4	W	H								
										X9	Y1	Y2	1FL	2FL	2100	2100							
										X17	Y2	Y1	1FL	2FL	2100	2100							
										X19	Y4	Y3	1FL	2FL	2100	2100							
1C									所属通	通芯		階		躯体開口幅	躯体開口高	躯体開口幅	躯体開口高						
										*1	*2	*3	*4	W1	H1	W2	H2						
										X6	Y1	Y2	1FL	2FL	1050	2100	1050	2100					
共通	✕✕ : 鉄筋とコンクリートを撤去 ▨ : 鉄筋を残置、鉄筋に損傷を与えないようコンクリートを撤去				▨ : 既存壁面を目荒らしのうえ、コンクリートt100打増とする。 打増部の配筋はD10φ200シングルとする。 ▨ : 既存壁小口を目荒らしのうえ、コンクリートt250打設する。 開口補強筋と既存壁筋、打増部壁筋に加え、開口周囲にコの字筋を配筋する。				代表となる設計者 その他の設計者	勝矢 武之 一級建築士 久次米 薫 一級建築士・構造設計一級建築士(法適合確認) 宮城 正弘 一級建築士・構造設計一級建築士 若松 宏輔 中村 優人 大和 絢子				日建設計				(仮称)人生100年の学びの拠点 中頃別学園整備工事				No. J-221730-C	(通し番号) 12-4
審工				竣工				監理				施工				12-04_中頃別 棟2耐震壁解体範囲図, dwg_1/50_24/05/14							
2024, 8, 30				検図者: 宇田川 貴章				耐震壁解体範囲図				A1=1/ 50 A3=1/100											

